

10

外務省 第七五二號

昭和三年八月四日

大阪府知事 力石雄一郎

昭和參年八月九日 接受



内務大臣 望月幸介殿
外務大臣 野村 田中義一殿
指定及和歌山各廳并縣長官殿

土耳其代理大使 來往之関スル件

駐日土耳其代理大使

ノウルウツシ フワード ベー

M. Houloussi Haud Bey

日土貿易協會之於テハ 明治二十三年九月十六日 和歌山縣 東牟婁郡 大島村 控野崎燈台附近之於テ 日土親善ノ犠牲 トナリタル 土耳其軍艦 エルドグラール號 乗組員 五百八十名ノ 吊魂 祭ヲ 前記 燈台附近ニ於

テ舉行 スルトナリ 之レニ 参列ノ 爲 右代理公使ハ 本日午前九時 大阪 派着 列車ニテ 東京ヨリ 来阪 大阪ホテルニ於テ 少憩後 午後二時半 天保山 棧橋 出帆ノ 那智丸ニテ 和歌山 縣ニ 向ケ 出奔セリ 右及申 (通) 報候也

M-0464

0407

外務課

外務省 藤井 第七五五號

昭和三年八月七日

昭和參年八月九日

接



大阪府知事 力石雄一郎

内務大臣 望月圭介殿
外務大臣 田中義一殿
指室及和歌山各廳府縣長官殿

土耳其代理大使來往之関スル件

土耳其代理大使

フウルウツレ フウアド パー

501.8511

右者之関シテハ本月四日外務第七五五號ヲ以テ

既報ノ處 昨六日午後八時 大阪港入港、那
智丸ニテ和歌山縣ヲ再ヒ來阪、大阪ホテルニ於テ
少總後午後八時五十三分 大阪駅發列車
ニテ 歸京セリ
右及申(通)報候也

M-0464

0408

16

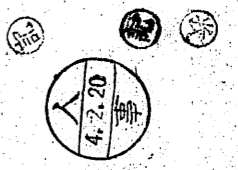
人事課

兵外發秘第三六八號

昭和四年二月十五日

兵庫縣知事 長 延 連

昭和四年貳月拾九日發受



内務大臣 望月圭介殿

外務大臣 田中義一殿

指定廳 府縣長官殿

駐日土耳其大使 歸國ニ關スル件

首題大使 エツチ、フウアド、ビー

M. Faurd Bey.

右 夫人 マダム、フウアド、ビー

Madame Faurd Bey.

501.8511

右ハ賜暇本國歸還、途本日午前十時二十
四分三官駅通過西下シタルが先是ヨリ公
夫人ニハ昨十四日朝鐵路着神今日正午當
港出帆ノ諏訪丸ニテ出發シタルが本夕門司港
ニ於テ大使ハ同船ニ移乘シ歸還ノ筈ナリ
右及申(通)報候也

M-0464

0409

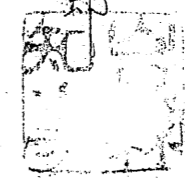
17

人事課

特外第四一六二號

昭和四年二月十六日

山口縣知事 大森吉五郎



昭和四年貳月廿貳日 接受

内務大臣 望月圭介殿
外務大臣 田中義一殿
指定廳 府縣長官殿

トルコ代理大使 渡内 伴

駐日トルコ代理大使

フウルツシフオードヘエー

右者西下ニ関シ 昨十五日 廣島(貴)縣ヨリ 電話通報、次第モアリ 注意中 夫人同僚 幸及ニ 持着列

車ニテ 来関セルヲ 視察スルニ 夫人、帰國ヲ 見送、為ナリト 稱シ 直チニ 山陽ホテルニ 入り 一泊 本日 午前十時 十分 鉄道省ウシ 船島丸ニテ 内司 碇泊中、諷訪丸ニ 向ヒタルガ 夫人、同船ニテ 欧州ニ 本人ハ 正午 内司 出帆、瑞穂丸ニテ 神戸ニ 向フ 趣ニテ 相當 便宜 供與シ 福岡(貴)縣へ 通報シ 置キタリ

右及申 通報 候也

501.8511

M-0464

0410

18

人事課



特外 鮮秋 第一七五 號

昭和四年二月十九日

福園縣知事 齋藤守園

Handwritten signature

昭和四年貳月廿貳日 接受



内外 務大臣 望月圭介 殿
指 定 廉 府 縣 長 官 殿

駐日土耳其大使 餞國ノ件

501,8511

夕ルハ 今 回 賜 暇 本 國 へ 餞 還 ノ 途 中
本 月 十 六 日 午 前 十 時 関 門 連 絡
駐日土耳其大使 エッテフアトベ
夫 人 マダム フウアドベ

船ニテ 来門セルヲ 山口 置縣ヨリ 注
意方引 練ヲ了シ 視察 中 正 牛
川司 令 帆ノ 諏訪 孔 便 餞 國 牛
途 就 帆ノ 諏訪 孔 便 餞 國 牛
右 興 置ケリ

M-0464

0411

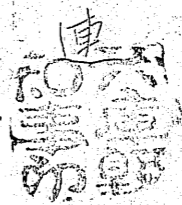
20

人事課

兵外弁秘第四〇三號

昭和四年二月二十日

兵庫縣知事 長 延



内務大臣 望月圭介殿
外務大臣 田中義一殿
指定能村縣長官 殿

土有古代理大使来姓ニ関スル件

東京駐劄土有古代理大使

エツケ、フウアド、
J. F. Hand Bey

501.8511

肩書代理大使一行、来注ニ関レテハ既報ノ如ク今人
ハ今回門司出帆ノ詔訪ヲテ帰國セル夫人見送ノ
為今地ニ旅行セルモノナルカ帰任ノ途次本月十七日
午前七時三十分門司ヨリ当地入港ノ瑞穂丸ニ
テ来沖東亞ホテルニ止宿大阪駐在合國領事館取扱ノ
書類ヲ提出セルノ檢閲中ノ如ク十九日午後七時五十七
分三宮駅弁列車ニテ東京ニ向ケ退神ニタリ尚
同人ノ語ル如クヨシハ今回支那南京ニ轉任ヲ命メ
ラレタルヲ以テ近ク駐日代理大使トシテ赴任ノ筈ナル
後任者 (J. F. Hand Bey) 来着ヲ待テ事務ヲ継
ノ上任地ニ赴クノ模様ナリ追テ本月十五日兵外弁
秘第三六八号ヲ以テ代理大使ハ帰國ノ途次当地通過セル旨既
報セルニ右ハ今夫人帰國ノ誤ニ付及訂正候也
如及申(通)候候也

M-0464

0412

人事課
兵外發秘第四六八號

昭和四年二月二十七日

兵庫縣知事 長 延

内務大臣 望月 圭 介 殿
外務大臣 田中 義一 殿
指定廳 府縣長官 殿

土耳其代理大使渡来ノ件

東京駐劄 新任土耳其代理大使

テラート、レウーフ

Tekaat Reauf

561.8511

右者本月二十六日午前當地入港ノ白山丸ニテ赴

任ノ途次来神當地オリエンタルホテルニ於テ晝餐
後市内見物ノ上今午後七時五十七分三宮駅發列車ニテ
東京ニ向ケ出發セルカ當廳視察員ニ対シ左ノ如キ感
想談ヲ爲シタリ
右及申(通)報候也

記

駐日新任土耳其大使デヴアド氏ハ目下アセス市
ニ在リ約一ヶ月後ニハ當地ニ来着ノ筈テ夫レ迄
自分ハ代理大使トシテ勤務スル訳テアルカ自分
ハ日土兩國間ノ通商漸ク盛ナラントスル際貴
國へ来々事ハ最モ光榮トシ欣幸トスル處テ
アル日土兩國間ノ通商貿易ノ如何ニ密接ニ
ナリシアルカハ昨年中土耳其ヨリ貴國へ輸

M-0464

0413

出シタ綿花ノ價格殆ンド一千万圓ニ達シタ一
事デモ分ルノデアアル 今後三四年間ハ貴國ニ
滞留スル考ヘテアルガ其間兩國ノ通商ノ
促進ヨリ延ヒテ親善ノ為メ努力シ度イト思
フ云々

以上

M-0464

0414

23

人事課
外秘第六八六號
昭和四年三月五日

昭和四年參月六日

接受

警視總監 宮田光雄

内務大臣 望月圭介殿
外務大臣 野澤田中義一殿
指定廳 府縣長官殿

土耳其代理大使 着任ノ件

府下 渋谷町 神山四十七番地

土耳其大使館内

代理大使

501.8511

テラート レウーフ

Telut Reauf

右者渡來ニ關シテハ客月二十七日兵外茂第四六八號
兵庫(貴)縣ヨリ通報ノ次第モアリタルカ二十七日午前九
時十分東京駅着ニテ入京着任セリ前代理大使フウア
トペーハ事務引継ヲ為シ來ル十日頃出度渡滬シ約二
ヶ月滞留後一應歸國シ北平へ赴任スル予定ナリト
尚駐日大使 デパート氏ハ來ル四月中旬頃着任スヘシ
ト謂フ

右及申(通)報候

M-0464

0415

29

人事課

外秘第一〇〇二號

昭和四年三月三十日

昭和四年四月壹日

接受

警視總監 宮田光雄

内務大臣 望月圭双殿

外務大臣 男爵 田中義一殿

指定 聽府縣長官 殿

新任土耳其大使着任豫定ノ件

新任駐日土耳其大使

ゼヴェクトベ

501.8511

右者ギリシヤ駐在公使ナリシガ今般駐日大使ニ轉任シ
目下赴任ノ途ニアル由ニテ来ル四月九日横濱入港着
任ノ豫定ナリト

右及申(通)報候

M-0464

0415

31

人事課
外秘第一〇九七號
昭和四年四月八日

警視總監 宮田 光雄

昭四年四月拾日 接受



内務大臣 望月 圭介 殿
外務大臣 野田 中義一 殿
指定廳 府長官 殿

新任土耳其大使 入京ノ件

府下 澁谷町 神山 四七、土耳其大使館内

新任土耳其大使 セヴァトベ

夫人 同伴

501.8511

右着任豫定ニ關シテハ客月三十日外秘第一〇〇ニ號、
既報ノ處昨七日横濱入港汽船ニテ渡來シタル由ニテ
同日午前十時頃自動車ニテ入京府書大使館ニ入レリ
右及申(通)報候

M-0464

0417

人事課
外務部第四三六號

昭和四年四月八日

神奈川縣知事 池田 宏

昭和四年四月拾日

接

印

印



内務大臣 望月 圭外殿
外務大臣 田中 義一殿
指是各廳府縣長官殿

新任土身古大使着任件

ヂェヴアド、ベイ

Dyward

Bay

54

夫人及從者一名左伴

5018511

右者本月七日午前六時當地入港、英國汽船マン
ケニアノ號ニテ着任セリ、駐日同國代理大使原外務
大臣(貴官)秘書官當地同國名譽領事等、
出迎ヒラ後ケ即日上京セリ、
迎テ今大使ニ對シテ相當便宜供與セシメ置キタリ。
右及申通報候也

49

人事課

外秘第二三〇四號

昭和四年七月二十五日

警視總監 丸山 鶴吉

内務大臣 安達 謙藏 殿

外務大臣 男爵 幣原 喜重郎 殿

埼玉 群馬 長野 各縣 知事 殿

土耳其 大使 避暑 旅行 之 件

東京府 下流谷 町 神山

駐日 土耳其 大使

エツチ、ヂエヴァット (當五十四年)

501.8511

右者夫人 同伴 避暑、為本日午前八時 自宅 出發 自
動車ニテ 輕井澤ニ向ヒタルカ 同地 萬平ホテルニ 約ニ
週間 滞在、予定ナリト

右及申 (通) 報 候

昭和四年七月廿六日 接獲



M-0464

0419

50

人事課

特高 昭收第三四二八二號

昭和四年七月廿六日

長野縣知事 鈴木信太郎

昭和四年七月廿九日 接

内務大臣 安達謙藏 殿
外務大臣 幣原喜重郎 殿
指定廳府縣長官 殿

トルコ國大使來輕之件
トルコ國大使

シエーワット、バー

右者妻合件昨午五日自勸車ニテ管下輕井
沃所来着今地果平ホテルニ投宿避暑帶在中
右及申(通)報候也

501.9511



M-0464

0420

52

特高^事收第三八五四號

昭和四年八月十七日

長野縣知事 鈴木信太郎

Handwritten signature



昭和四年八月拾九日接受



内務大臣 安達謙藏 殿
外務大臣 幣原喜重郎 殿
指先 縣府 縣長 官 殿

土耳其大使 帰軽ノ件

軽井澤萬平ホテル 止宿

土耳其大使

ジエー、ワット、バー

5018511

右者妻合伴本乃十三日上京ノ旨既報ノ慶 七月十四日午所

九時五十四分軽井澤駅着列車ニ帰軽セリ
右及申(通)報候也

M-0464

0421

53

大事課
特高秘收第三九七四七號

昭和四年八月廿四日

長野縣知事

鈴木信太郎

4.8.27
事

昭和四年八月廿六日 接受

内務大臣 安達謙藏殿
外務大臣 幣原喜重郎殿
指定府縣長官殿

土耳其大使 飯京ノ件

輕井沢町万平ホテル止宿

土耳其國大使

ケエロツトマ

右者客月廿五日来輕府書ホテルニ投宿避暑中

在申ノ旨既報ノ處去ルニ十日自勤車ニテ夫人全

兼飯京セリ

右及申(通)報候也

5-01,85-11

M-0464

0422

54

人事課

外秘第二六八七號

昭和四年八月二十七日

警視總監 丸山 鶴吉

内務大臣 安達 謙藏殿

外務大臣 男爵 幣原 喜重郎殿

神奈川 長野、埼玉、群馬、
各縣知事殿

土耳其大使旅行ノ件

府下 澁谷町 神山 四七 居住

駐日 土耳其大使

ゼグアト

夫人同伴

501.5511

右者 避暑ノタメ 輕井澤ニ旅行セル旨 客月二十五日外
秘第二三。四號 既報(神奈川(貴)縣ヲ除ク)ノ處 本
月二十日 帰京シ更ニ二十二日 神奈川縣 箱根 宮ノ下 高
ヶ旅行シタルカ 同地 富士屋ホテルニ來 月上旬迄 滞留ス
ル豫定ナリト

右及申(通)報候

昭和四年八月廿八日 接受



M-0464

0423

501.8511

人事課
外秘收第764の號

昭和四年八月廿八日

神奈川県知事 山縣治郎

昭和四年八月廿九日 接受

國務大臣 安達謙藏殿
外務大臣 幣原喜重郎殿
指定廳長官殿

駐日土耳古大使 末箱二件

駐日土耳古大使

チエツト ベー

夫人同伴

右者避暑、為々本月廿五日午後十時頃末箱

宮下富士屋ホテルニ止宿中ナルが約二週間

滞在ノ旨

右及申(通)報候也



M-0464

0424

56

501.8511

人事課
外務部 第七六四〇號
昭和四年九月四日

神奈川縣知事 山縣 右 郎

内務大臣 安達 謙藏 殿
外務大臣 幣原 喜重郎 殿
指定各廳 對縣長官 殿

駐日土耳其大使 取京ニ関スル件

駐日土耳其大使

ヂェー・ワット・バー

夫人 同伴

右者 避暑ニ為リ 米箱宮去屋ホテニ 滞在ニ在ル

皆 客月廿八日付本號 既報ノ 處 本月三日午後九
時 今ホテニ 出立 大使館 自動車ヲ 取京セルガ 特
異 言動 ナシ

右及申 (通) 報 候也

昭和四年九月五日 接受



M-0464

0425

人事課
特高秘書三九七。五號
昭和四年十一月二十八日
原田 維 織
接受

栃木縣知事

内務大臣安達謙藏殿
外務大臣幣原喜重郎殿
指定廳府縣長官殿

土國大使來往
東京市駐在

土國大使
昭和四年十一月二十五日午後七時十分具光驛着
列車
夫人同伴登見日光町金澤市

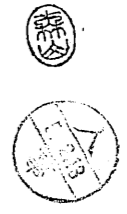
ルニ投宿山内各社寺等拜觀並中禪寺湯
本寺探勝遊覧ノ上本日午前九時十分
光驛発東武電車ニテ帰京セルカ遊覧人
為登見セルモノニシテ容疑ノ虞無之
右及申(通)報候也

M-0464

0426

69

人事課
外秘第三八九號
昭和五年二月十二日



昭和五年貳月拾陸日接受



警視總監 丸山 鶴吉

内務大臣 安達 謙藏殿
外務大臣 野村 浩平 喜重郎殿
東京地方裁判所 檢事 正殿

土耳其大使館 邦人從僕 拐帶犯ニ關スル件

本籍 東京市本所區北新町六〇番地
住居 府下 菫谷町 土耳其大使館内

大使館從僕 川田 清三郎

4611.105
501.B3511

右者客月二十七日肩書大使ヨリ月末支拂、石炭洗濯代
等雜費トシテ現金二百三十圓餘ヲ受領セル儘行衛
不明トナリタル趣ヲ以テ同大使館ノ申出ニ依リ極秘裡
ニ捜査中ノ處同月三十一日所轄署ニ於テ所在ヲ發見シ
取調フルニ拐帶金ノ内本人ノ一月分日給等ヲ差引約六十
圓ヲ遊興等ニ費消シタルコト判明セルモ同大使館ノ意向
ニ基キ刑事問題トセス將來ヲ嚴重戒飾シ一時釋放シ
置ケリ

右及申(通)報候

M-0464

0427

170

歐米局

人事課

外秘第一三一八號

昭和五年五月一日

川

警視總監 丸山 鶴吉



昭和五年五月貳日

接受



5018511

内務大臣安達謙藏殿
外務大臣野呂原喜重郎殿
指定廳府縣長官殿

土耳其大使夫妻旅行ニ關スル件

府下澁谷町神山四十七番地

駐日土耳其大使館内

大使、エツチ、ヂェヴァトベー（當五十五年）

夫人同伴

右者今回觀光ノタメ客月三十日午後九時二十五分東京
驛發列車ニテ京都ニ向ヒタルカ京都、奈良、大阪宇
治山田各地ヲ巡覽シ來ル十日頃歸京ノ予定ナリト
右及申（通）報候

M-0464

0428

71

人事課
外秘第一五一〇號

昭和五年五月十二日

歐米局

小鶴

警視總監丸山鶴吉

外務大臣安達謙藏殿
外務大臣男爵幣原喜重郎殿
指定廳府縣長官殿

土耳其大使及芬蘭領事來往ニ関スル件

府下菫谷町土耳其大使館内

大使 ガエヴァトベー(五五)

夫人同伴

45029811
5015511

右者客月三十日関西地方觀光旅行ニ出發、旨既報ノ處途中夫人、健康勝シサル為豫定ヲ早メ本月七日帰京セリ

帝國ホテル止宿

神戸駐在芬蘭領事

ダブリユール

(當四十八年)

右者新任芬蘭公使ニ挨拶旁々事務打合ノ為本月八日午前十時神戸ヨリ入京肩書ホテルニ止宿セルカ分明日中退京ノ豫定
右及申(通)報候

M-0464

0429

72

人事課

外秘第四三一號



昭和五年五月廿四日 接受



歐米局



昭和五年五月十二日

大阪府知事 柴田善三郎

内務大臣 安達謙藏 殿

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

指定各廳府縣長官 殿

土耳其大使夫妻旅行ニ関スル件

東京駐劄土耳其大使

エツケ、ゲエヴァト、ベ

夫人同伴

501.8511

右ノ者西下観光ニ関シ本月一日附外秘第一三

一八號警視(貴)廳ヨリ通報ニ接シタルヲ以テ注

意中ノ処未タ來阪ノ形跡ナシ

右及申(通)報候也

M-0464

0430

73

人事課

外秘第二二〇〇號

昭和五年七月三日

警視總監丸山鶴吉

歐米局



昭和五年七月四日

接受



内務大臣安達 謙藏殿
外務大臣男爵幣原喜重郎殿
長野縣知事鈴木信太郎殿

土耳其大使避暑旅行ニ関スル件

府下澁谷町神山四七番地

駐日土耳其大使 ガエヴァート、ベ

夫人同伴

5018511

右者約ニケ月、豫定ヲ以テ避暑、為本日午前九時
ニテ分上野駅發列車ニテ長野縣輕井澤ニ向ヒ夕
ルカ同地一三九ニ番地ニ一戸ヲ借り度ケ滞留スヘシト
謂フ

右及申(通)報候

M-0464

0431

74

人事課

特高秘收第33532號

昭和五年七月七日

昭和五年七月拾壹日 接受

歐米局



長野縣知事

鈴木信太郎

内務大臣 安達謙藏殿
外務大臣 幣原喜重郎殿
指定廳府縣長官殿

土耳其大使 來輕ニ關スル件
在東京土耳其大使

ヂェヴァート
General Bey

5018511

右夫人同伴本月二日午台ニ時二十七分着列車ニ

テ管下輕井澤ニ来リ別荘一三九ニ番ニ避暑滞在

中
右及申(通)報候也

M-0464

0432

人事課

外秘第二八四七號

昭和五年八月十六日

警視 總監 丸山 鶴吉

歐米局

内務大臣 安達 謙藏殿
外務大臣 幣原 喜重郎殿
神奈川 長野 各縣 知事殿

土耳其大使館員、來往ニ関スル件

(一) 府下遊谷町神山四七番地

土耳其大使 公エウアド ベー

夫人 同伴

4501.88511
501.8511
(分類 M2.5.10.3-20)

右者 櫻井 翠 避暑ニ関シテハ既報ノ處 客月十八日一旦
帰京一泊、上翌十九日再ヒ同地ニ向ヒタリ 本月末頃迄
滞在ノ豫定

(二) 府下遊谷町神山四十三番地

土耳其大使館 テラート レウーフ

参事官 *Delat Reauf*

右者 五月二十五日ヨリ 眼疾治療、為箱根宮下富士屋
ホテル 滞在中ナル日 既報ノ處ナルカ 病症 輕快ニ向ヒ
タル名メ 近日 帰京ノ豫定

(三) 府下遊谷町松濤六一番地

土耳其大使館 セラハン レウエトバー

一等書記官 *Delalattin Refee Bey*

記録
昭和五年八月十六日
外務省
事務局長 田中 義典

M-0464

0433

右者客月五日ヨリ神奈川縣下鎌倉ニ避暑本月
末頃迄滞在、豫定
右及申(通)報候

M-0464

0434

人事課
其外奉秋第三四三號

昭和五年九月廿三日

兵庫縣知事 高橋守雄

昭和五年九月廿六日接受

在任中
被任命為
土國知事

歐米局

内務大臣 安達謙藏 敬
外務大臣 幣原喜重郎 敬
指定府府縣長官 敬

土耳其大使未往之関スル件

駐日土耳其大使

カエワンド
Bey
夫人同伴

(分類 2.S.O.3-20)

右者 鐵路未神ノ件ニ関シテハ大阪(貴)府ヨリ電話
通報アリタル処本月二十一日午前九時三十分官
車着到車ニテ東京ヨリ未神直ニ出港破泊中ノ
長形丸ニ乗船令正午出帆ノ令船ニテ天津ニ向テ出
航スルハ如シニ圖閣ノ希定ニテ北支那方面ノ視察ヲ
為ス等ニ有也
右又申(通)報候也

M-0464

0435

人壽

特外郵便第一七六號

昭和五年九月二十五日

福岡縣知事 松本 守

内務大臣 安達謙藏 殿
外務大臣 幣原喜重郎 殿
指定 不詳 縣長官 殿

知 名 外 國 人 來 往 関 係 件

東京駐在 古國特命全權大使

シエバット (D.O.)

Spencer Bay

(分類 M2.5, 0, 3-20)

右者本月廿二日午前七時神戸より門司入港今日

午正二時天津へ向ケ出帆、商船長江丸ニテ夫人及被
書同伴北支那(主トシテ北平、奉天、天津、青島)觀光ノ為
渡支ノ途ニアリタレテ以テ視察スルニ何等容疑ノ莫
ラ認メズ

右及申(通)報候也

記録名
邦交関係
昭和五年九月廿九日接受

昭和五年九月廿九日接受

M-0464

0436

人事課

外秘第三三四一號

昭和五年九月二十七日

警視總監丸山鶴吉

歐米局



内務大臣安達謙藏殿
外務大臣男爵幣原喜重郎殿
指定廳府縣長官殿
在支各内務事務官殿

土耳其大使ノ渡支ニ關スル件

府下澁谷町神山四七番地居住

土耳其大使 ギエヴァードベール(當五十四年)

(外秘M2, 5, 20, 3-20)

右者夫人、及従者「アマメドガマル」同伴本月二十一日午
後九時二十五分東京驛發列車ニテ神戸ニ向テ出發
セルカ同地ヨリノ便船ニテ渡支青島天津北京南京
等ヲ約一ヶ月ニ亘リ巡遊ノ上朝鮮經由歸京ノ予定

右及申(通)報候

記録係 功 昭 和 五 年 九 月 廿 九 日 接 受

昭 和 五 年 九 月 廿 九 日 接 受

M-0464

0437

(分類M2,5,0,3-22)

通報先 軍視總監 朝鮮軍司令官

日三十月十	月	日
東上 全列 格船	六時 入港 金庫	下着 時刻 時刻
館 東京 土耳古 大使	土耳古 大使	籍 所
Bay	ベケット	姓 名
使 城 京	大 京 東	職 業 地 先
	滿 鮮 地 先	行 目 的
	客 回 二 日 神 戶 出 航 天 津 赴 青 島 諸 所 遊 覽 一 日 神 戶 陽 小 樽 上 東 上 九 相 馬 便 面 供 具 等 類	備 考

外國人 來往 件

内務大臣 安達謙藏殿
外務大臣 幣原喜重郎殿

昭和五年十月十四日
山口縣知事 平井三男

和昭五年拾月廿日 接要

平井三男
山口縣知事

M-0464

0438

人事課

關機高收第一六〇二四號ノ二

利

昭和五年十月二十八日

關東廳警務局長

昭和五年十月 四日 接受

記録簿
昭和五年十月二十八日
關東廳警務局長

關東廳警務局長印

關東廳長
秘書官

奉天哈爾濱吉林各總領事	指 定	警 務	內 務	外 務	拓 務
	廳 府	廳 署	省 署	省 署	省 署
	官	官	官	官	官
	官	官	官	官	官
	官	官	官	官	官

駐日土耳其古大使來滿動靜ニ關スル件

首題ニ關シ別紙寫ノ通奉天地方事務所長ヨリ滿鐵交渉部へ報告アリタル旨滿鐵資料課長ヨリ通報有之候條御參考迄

(分類 M/215.03-20)

シニバト、大使夫妻ハ北平方面旅行ノ歸途北寧線經由十月十一日午前七時半着奉(途中車輛事故ノ爲ニ時間延着)直ニヤマトホテルニ入り十時當所訪問後休憩午后三時半安奉線八列車ニテ朝鮮ニ向ケ出發シタルカシ大使ノ來奉ニ關シテハ當所ハ何等ノ通知ニ接セス大使ノ小職トノ會見申込電話ニ依リ始メテ大使ノ來奉ヲ知レリ故ニ來奉モ地方狀況聴取カト考ヘタルカ大使ハ小職ト會談スルヤ北平公使館及ツリスト、ピニールト道シ旅館並寢台豫約ヲ手配シ置キタルニ拘ルニ日本側ハ極メテ冷淡ナリトノ不満口吻ヲ洩シ居レリ依テ事情ヲ聴取シタル所當地ホテルノ部屋ハ已ニビニールヨリノ手配ニヨリ用意シアリ又ホテルノ荷物ノ取運等夫々手配ヲナシタルモノニテ同氏ノ口吻ニテハ領事館及ホテル等ノ關係者カ特ニ出迎ヘナカリシカ多少ノ不満ナル模様ニテ(之ハ北寧線ニ於テ列車事故ノ爲數時間ヲ支那普通旅客ト共ニ食堂車ニ雜居セシメ

M-0464

0439

ラレ荷物モ多少被掛シタル爲不平ヲ持越シタルモノノ如シ(當地ヨリ以
後京城釜山等ノホテル豫約カ手配シアルヤ否ヤヲ確メラレ度シトノコト
ナレハ領事館及ホテルノ當務者トモ打合セ朝鮮方面ヘノホテル豫約等ヲ
更ニ打電シ旅行ノ便宜ヲ計リ又已ニ豫約シアル安奉線廢台ハオープンノ
モノニテ一室ヲ爲シロツタ出來得サレハ不便ナルカ故ニ大使タル身分ヲ
考慮シ出來得レハ便宜取計得度シトノコトナレハ他ノ例モ考慮シ可及約
便宜ヲ供給スルヲ得策ト認メ總務部ト電話交渉ノ上社線内ニ於ケル特別
室提供ノ手配ヲ爲シ又鮮鐵局ニモ大使通過ニ對スル便宜供與方ヲ領事館
ト共ニ電報シ鮮鐵ニ於テモ特別室ヲ提供スルコトトナリ萬事好都合ニ選
ビタル爲大使モ當所ノ好意ニ頗ル満足ノ意ヲ表シ離奉シタリ

人事課

兵外發秘第三一五三號

昭和五年十二月十六日

兵庫縣知事 高橋 守



内務大臣 安達謙藏殿
外務大臣 幣原喜重郎殿
指定廳 府縣長官殿

(關東廳ヲ除ク)

土耳其大使館附海軍武官來任ニ關スル件

駐日土耳其大使館附海軍補佐武官

中尉 平、シ、シヤウイウト

(當三五)

M2,570,3-201

S. D. Bryant

一右者本月十四日午前神戸入港、英船ラニテ号ニテ寄港
市内見物、上異状ナク翌十五日午前出帆、全船ニテ横
濱經由東京ニ向ケ出帆シタリ、
二本名、今回肩書大使館勤務トシテ赴任、為ノ渡来、
シタルモノニ有也
右及申(通)報候也

(3)

記録係
友部 多
高橋 守
昭和五年十二月九日 接受

昭和五年十二月九日 接受

人事課

六特秘才一八一〇號

昭和六年六月八日

京都府知事 佐上 信一

内務大臣 安達 謙藏 殿
外務大臣 幣 原 喜 重 郎 殿
指 定 廳 存 取 長 官 殿

駐日土耳其大使 來 往 件

駐日土耳其大使

トセツアロト ハエー

Agemad Bay

分類 M25103-20

右本月五日午頃、山口、今、京都、歌、着、遊、早、多、夫人、同、
伴、入、右、市、内、多、都、不、元、之、校、存、即、六、日、多、都、即、所、三、系、商、

高、和、觀、後、東、山、方、向、之、見、物、南、禅、寺、内、野、村、別、邸、之、
到、リ、七、日、午、多、都、衣、之、赴、十、午、頃、右、市、内、祇、園、大、平、樂、カ、フ、
早、店、之、立、寄、リ、八、日、午、多、都、八、廿、也、今、多、都、即、所、取、及、列、車、之、
東、車、之、向、之、出、發、也、右、及、申、通、報、矣、也、

駐日土耳其大使 來 往 件
昭和六年六月十五日接受

藤藤

昭和六年六月十五日接受

人事課
特高秘第一八六〇四號

昭和六年七月四日

石本 跡知 事
淺利 三 郎

内務大臣 安達謙藏 殿
外務大臣 幣原喜重郎 殿
警視總監 高橋守雄 殿

土耳其大使 未往ニ関スル件

土耳其特命全權大使

エーランド
Bey

(カ 類 M2.5.0.3-26)

右大使ハ六月二十七日大使館専用自動車ニテ夫人同伴
金谷ホタルニ投宿シ日光山中宮祠等ノ名
所遊覽六月二十八日自動車ニテ帰京セルガ土曜、日曜
両日ヲ利用シ静養ノ為メ未往シタルモノ、如シ
ハ及申(通)報候也

昭和六年七月九日 接受
6/9

M-0464

0443

昭和六年八月拾參日接受

人事課
外秘第二二〇〇號

昭和六年八月十二日

警視總監 高橋守雄

内務大臣 安達謙藏 殿
外務大臣 幣原喜重郎 殿
北海道大阪兵庫神奈川福岡
長崎愛知福井山口
各廳府縣長官 殿

(分類 172-5-0-3-20)

土耳其大使ノ飯國ニ関スル件
府下澁谷町神山四七番地 大使館内居住

駐日土耳其大使 ジェワツド ベー
夫人 同 伴

右者ギリシヤ駐在公使ヨリ駐日大使ニ転任昭和四年四月
七日横浜經由渡米入京現在ニ至リタルカ今回飯國ヲ命セ
ラレ昨十一日午后四時横濱解纜ノ「アレヂデント、グラント」
號ニテ夫人同伴米國經由飯國セリ後任ニハ大使館參事官
「ラシブ、ライフ、ベ」代理大使トシテ渡來ノ豫定ナルカ
同代理大使着任迄現任參事官「テラート、レウフ」氏事
務ノ代行ヲナス由ナリ
尚大使ニ隨行渡來セル料理人埃及人「アフメットガマル」ハ
十二日神戸出帆ノ伏見丸ニ便乗飯國ノ豫定
右及申(通)報候

M-0464

0444

人高 茅五五七號

昭社六年十月十日

福井縣知事

齋藤直稿



内務大臣 安達謙藏殿
外務大臣 幣原喜重郎殿
警視廳 北海道神奈川
愛知 京都大阪 兵庫山口
福岡(各) 各府縣 長官 殿

(分類 M2.5.0.3-20)

新任本邦土耳其公使館員渡来ノ件
在アフガニスタン土耳其公使館
ニ等書記官

土耳其人 ジエマル キヤジム ブイ (三〇)

Djemal Kigim Bey

右者本月九日午前九時浦益ヨリ敦賀入港ノ天草
丸ニテ渡来熊谷ホテルニ入り休憩午後七時四十八分敦
賀駅發列車ニテ東京ニ向ケ出發セルガ

本名ハ從來在 アフガニスタン國「カブール」市土耳其
公使館ニ等書記官トシテ勤務中ノ處今四在東
京公使館ニ轉勤ヲ命セラレ九月六日在莫斯科日
本帝國大使館ニテ査証ヲ受ケ西北比利亞至由赴任
シ来リシモノニシテ硬宣告野方ニ属シ廣田駐露帝
回大使ノ添書ヲ所持シ居リ他ニ容疑ノ矣ヲ認メズ
右申(通)報候也

記録係 在本邦各國外交官領事官
及館員勤務 土國ノ部

昭和六年十月拾貳日接受

M-0464

0445

人等

外高紀第九六九號

露國渡来者表(外人)

福中縣
昭和六年十月十三日

記録簿

在本邦各國外交官領事官
館員動静關係雜件

昭和六年拾月拾六日

(分類 M2.5.0.3-20)

国籍及住所	氏名	令年	職業	上陸地及 乗船月日 乗船名	渡来及 帰朝日 的	行先 定滞地 向	本邦内 居住所 業氏名	備考
露國	ニコライ ワレリエウ イタ ゴバイリヨフ	ニセ	留學生 全	十月九日 東京工部 古公使館 ニセ書託 生	十月九日 東京工部 古公使館 ニセ書託 生	東京	東京工部 古公使館 ニセ書託 生	東京
露國	ニコライ ワレリエウ イタ ゴバイリヨフ	ニセ	留學生 全	十月九日 東京工部 古公使館 ニセ書託 生	十月九日 東京工部 古公使館 ニセ書託 生	東京	東京工部 古公使館 ニセ書託 生	東京

申(通)敬先内外相警視廳北海道神奈川愛知京都大阪福岡兵庫長崎山口

M-0464

0446

人事課
外務部第三四一二號

昭和六年十二月二十四日

警視總監長延連

昭和六年三月廿六日接受

外務部
警視總監長延連
大國一

大務大臣中橋徳五郎殿
外務大臣大養毅殿

北海道、大阪、兵庫、福井、
神奈川、山口、福岡、長崎
各廳府縣長官殿

新任土耳其大使、入京ニ關スル件

府下澁谷町神山四十七番地居住

新任土耳其大使

Netol Bek
夫人令嬢ニ令息ニ婢同伴

右者本月十七日横浜入港、コリア、フーバー、號ニテ家族及婢同
伴本國ヨリ渡來入京、麹町区山下町帝國ホテルニ泊、上
翌十八日肩書大使館ニ入りタルカ本名ハアフガニスタン首
府「カブール」駐在公使ヨリ駐日大使ニ転任ヲ命ゼラレ渡
來セル由ナリ

尚前任大使飯國後參事館「テラリト」レウ「ラ」代理大使ト
シテ執務中ナリシガ新任大使渡來ノ爲メ飯國ニ決シ本月
二十九日横浜出帆ノ便船ヲ米國經由飯國ノ予定ニテ本
月十八日帝國ホテルニ転宿準備中ニ有之
右原申(通)報候

M2-5-63

M-0464

0447

人事課
精高秘 第ニナ四三三號

昭和七年十月二十七日

栃木縣知事 半井 清

内務大臣 山本 達雄 殿
外務大臣 内田 康哉 殿
警視總監 神尾 嘉平 殿

外口公館員 來往ニテ 元件

東京市駐在

土耳其代理大使

Muekkil Bey

右ハ 婦人同伴 奉一 月二十日 午後七時 五分 日
光 乘 着 列 車 三 登 見 光 金 岩 市 三 投 宿 觀 視 一

上 翌 三 日 午 後 四 時 分 日 光 乘 着 準 急 三 歸

索 也

在 駐 英 口 公 使 館 員

書 記 官

Stirling

右ハ 奉一 月二十日 午後一時 八分 日光 乘 着 列 車 二
三 登 見 光 日 光 町 金 岩 市 三 投 宿 中 禪 寺 湯 車
方 面 一 觀 視 三 爲 之 控 覽 中 一 處 三 四 日 午 後 四 時
分 日 光 乘 着 準 急 三 東京 市 三 白 々 退 日 光

東京市駐在

千代公使館書記官

Stirling

記録係 在 中 外 交 官 局 内 勤 務
由 但 土 國 一 部

昭和七年拾月廿八日



M-0464

0448

右「婦人」同伴本日午二時午後七時甲子東武日光
駛着電車ヲ登見金岩市ニ投宿中禪寺カ
西ノ探勝ヲ為シ翌午三時午後四時五分日光
列車ヲ歸京アリ

東京市駐在
英口大使
Francis, Henderson

右「婦人」同伴本日午二時午後四時五分大使館
自動車ヲ登見觀机中ナルカニ三日遊覽上
歸京ノ予定
右子中(通)報告候也

2

M-0464

0449

在在
土國、部

人事課
外叙第三三六一號

昭和八年九月三十日

昭和八年拾月貳日 接受



警視總監 藤沼庄平

條約局

3
内務大臣 山本達雄 殿
外務大臣 廣田弘毅 殿
神奈川縣知事 殿

土耳其大使館附三等書記官ノ行動ニ関スル件

神奈川縣鎌倉町海浜ホテル止宿

土耳其大使館附三等書記官

ジエマル・カヅム・ベ

(分類 M2,5.0.3-20)

右有酒癖更々素暴ノ言動アリ邦人間ニ物議ヲ生セシ事實ニ関シテハ各年四月十四日付外叙第九八七號既報ノ処ナルカ本名ハ昭和六年十月「アフガニスタン」在勤ヨリ本邦大使館付ニ転勤ノ際ハ全国政府ヨリ在京「アフガニスタン」人「アラタツプ」ニ交付スヘキ英貨二百ポンド(当時邦貨三千円)ヲ依頼セラレタルカ當時「アラタツプ」カ北平ニ居住スルヲ奇貨トシテ右委託金全部ヲ酒色ニ費消シタル由ニテ其右「アラタツプ」ヨリ本國ヨリ右送金ノ事實ヲ知り交附方嚴重督促セラレ支払ニ窮シタル結果各年八月七日澁谷区代々木山谷町ニ番地居住洋服商「ハーサン」ムスターハニ石窮狀ヲ訴ヘ三ヶ月ノ期間ニテ金一千円ヲ借用セルカ本名ハ右期間内ニ債務ヲ履行セス急メニ両者間ニ紛争ヲ生シ「ハーサン」ハ數回督促セルカ本年六月一日金二百五十円

M-0464

0450

ヲ返濟セルノミニテ其右殘金ノ履行ニ應セス本名ハ逆ク他國
ニ転勤ノ内命ヲ受ケ居ル趣ニテ債權者ハ逆ク訴訟提起ノ
模様ナリ

右及申(通)報候

M-0464

0451

人事課

外務第二五二七號

昭和八年十月五日

神奈川縣知事

横山助成

内務大臣山本達雄殿
外務大臣廣田弘毅殿
常陸縣補縣長官殿

駐暹羅外女官引揚歸京兩件
駐白トリス大使館三筆書記官

Mr. Special Kagim Bey

右者本年五月以來船官下鎌倉町海濱ホテルに駐在

滞在其間公大使館ニ通勤中ナリシ歟本月十日引揚ノト
稱シ歸京ナリ滞在申特異ノ点ヲ認メス
右及申(通)報候也

分綴 M2,5,0,3-20)

在在初各國外交官館事務官及館
員事務
土庫ノ部

昭和八年拾月六日 接達

M-0464

0452

人事課
外秘第二三八九號

昭和八年十一月三十日

大阪府知事 縣 忍

通商局長
第一
務大臣 山本達雄 殿
務大臣 廣田弘毅 殿
北海道 神奈川 兵庫 奈良
京都 福井 山口 福岡 長崎
各廳府縣長官 殿

外國公館負ノ來往ニ関スル件

駐日土耳其古代理大使

NEBEL BEY 夫妻

M21510.3-20
右者來阪ニ関シテハ警視(貴)廳ヨリ通報(本月二十日)外秘第
二八九六號)アリタルカ今名ハ今般關西地方視察觀光旁々大阪商

工會議所内近東貿易協會及日土貿易關係ノ實業家ト懇談
ノ為秘書近江谷駒(警視廳編入外事要注意人)附添ヒ本月
二十三日午後五時二十分着列車ニテ來阪シ大阪駐在土耳其名
譽領事森平兵衛其他關係者ニ迎ヘラレ直チニ大阪ホテルニ
投宿シ尤記ノ通り各種懇談會 歡迎會等ニ出席並ニ工場視
察ヲ為シ本月二十五日正午兵庫縣下甲子園ホテルニ轉宿シ夕
ルカ伊勢 参宮名古屋視察ヲ取止メ急用ノ為ト稱シ本月二十八日
午後一時發列車ニテ歸京シタルカ滞阪中ハ特ニ自動車ヲ提
供シ廳員ヲ派シ種々便宜ヲ供與シタルニ今名モ厚ク感謝シ居
リタリ
尚本名寺ハ前記近東貿易協會ノ斡旋ニテ本邦綿業者ノ印度

昭和八年三月四日 撥
人 8.12.4 事

M-0464

0453

原棉不買ノ間隙ニ乘シ当地貿易業者並ニ東洋紡績株式會社側ト懇談ノ結果土耳其原棉ニ千万圓賣買契約ニ關スル具體的了解迄ニ達シタルモノ、如ク今名ハ將來日土貿易上新面目ヲ發揮スヘシトテ自負シ満足シ居リタリ
追テ警視廳編入要注意人タル秘書近江谷嗣ノ行動ニ關シテハ相当注視シタルモ何等特異ノ言動ヲ認メス
右及申(通)報候也

記

十一月二十三日 來阪シ大阪ホテル止宿

一全 二十四日 午前五時十分ホテル發 府市兩廳ニ赴キ來阪ノ挨拶ヲ速ヘ更ニ大阪土耳其名譽領事館 稻畑勝太郎商店訪問ニ様挨拶ス 次テ近東貿易協會理事山田

(2)

寅次郎郎ニ赴キ茶筵ニ出席シタル後大阪城見物ス
午後一時ヨリ雀屋料亭ニ於ケル森土國領事主催招宴ニ臨ミ午後三時過散會ス
午後三時半ヨリ大阪朝日新聞社訪問シ社長村山龍平死去ノ吊問ヲナシ更ニ大阪毎日新聞社ヲ訪問シ社内ヲ見學シ歸宿ス
午後六時半東區備后町三丁目日本綿業クラブニ於ケル森名譽領事主催晚餐會ニ出席シ午後九時二十分散會歸宿ス

一全 二十五日 午前九時半第四師團司令部ヲ訪問挨拶ヲ速ヘ更ニ午前十時半兵庫縣下神崎東洋紡績神崎工場ニ赴キ松崎工場長ノ案内ニテ約一時間十分ニ亘リ綿布製造工程ヲ視察正午甲子園ホテルニ轉宿シ更ニ午後零時四十分再ヒ來阪シ大阪商工會議所樓上大阪商工會議所及近東貿易協會合同主催午餐會ニ出席ス

午後二時半東區本町三丁目敷物商吉田鹿之助商店ヲ訪
問シ土耳古向「ジュータン」見本ヲ購入ス
午後三時四十分ヨリ浪速區水崎町中山太陽堂工場ニ赴キ
クラブ化粧品製造工程ヲ見學シ午後五時半ヨリ北區
堂島浜通東洋紡績會社本社ニ於ケル土耳古原棉購
入ニ関スル意見ノ交換ヲナシ午後八時過甲子園ホテルニ
歸宿ス

一全 二十六日 午前十時十分ホテル發來阪シ市内見物ヲナシ午
前十一時四十分天王寺發列車ニテ奈良見物ニ赴キ午後
六時十分上本町着大軌電車ニテ來阪シ甲子園ホテル
ニ歸宿ス

一全 二十七日 午前中神戸視察ヲナシ午後三時來阪シ大阪商
工會議所樓上ニ於テ日土貿易組合懇談ニ出席シ日土
貿易促進ニ関スル意見ノ交換ヲ為シ午後五時ヨリ東區
北浜四丁目輸出商岩井勝太郎商店ヲ訪問シ相互貿
易種目ニ関スル懇談ヲ為シ午後六時ヨリ北區堂島真
岩料亭ニ於ケル本名主榎幹旋關係者招宴ヲ催シ午
後九時四十分歸宿ス

一全 二十八日 午後零時十分甲子園ホテル發來阪シ午後一時
大阪發列車ニテ歸京セリ

以上

(3)

人事課

外秘第三三三六號

昭和八年十二月二十七日

警視總監 派 沼 庄 平

内務大臣 山本達雄 殿
外務大臣 廣田弘毅 殿
此道は薩摩藩
神戶山崎藩長崎 各廳所長官 殿

新任土耳其大使館書記官ノ入京ニ関スル件

麹町區永田町二丁目山王ホテル止宿

土耳其大使館ニ等書記官

ハシムプ オスマン
Alparslan Osman Bey
一九一〇年生

右者近ク飯國豫定ノ三等書記官「ジエマル・カジム・ベール」ノ
後任トシテ本月十五日神戸入港ノ白山丸ニテ本國ヨリ渡来
翌十六日入京府書ホテルニ投宿事務引継中ナルカ本
名ハ獨逸駐任大使館駐ニ等書記官トシテ勤務中今回
轉勤ヲ命ヒラレ渡来セル趣ナリ
尚前任者「ジエマル・ベール」ハ末春一月飯國ノ豫定ナリ
右及申(通)報候

M2,520.3-20

在米米多國駐在任人
後之命務在薩摩藩長崎
土國 部

昭和八年十二月廿八日 接受

在本邦各國外交官、領事官及館員勤務
昭和九年一月拾貳日
人事課
9.1.13
事

人事課
外務第一〇號

昭和九年一月八日

福井縣知事 大 達 茂 雄

内務大臣 山本達雄殿
外務大臣 廣田弘毅殿
警視廳 北海道神奈川愛知
大坂兵庫山口福岡長崎
各府縣長官殿

駐日土耳古大使館員、離任帰國ニ
関スル件

東京駐在土耳古大使館書記官
土耳古人 ジエメル、カジム、ベイ(三三)

M2.5.03-20

Janak Kojima Beg

右者本月六日午前九時十四分敷賀港 駅着
際列車ニテ東京ヨリ来敷全町熊谷ホテルニ
憩、上午後二時ニハ新高丸ニテ渡浦セルガ
本名ハ昭和六年十月九日敷賀全由「ア」ガニスタン
駐在土耳古公使館ヨリ肩書大使館ニ轉勤セル
、ヒシテ今回本國政府ヨリ帰國命令ニ依リ離任級
回スルモノ有之
携帶品等格別容疑、莫ヲ認メズ
右及申(通)報候也

M-0464

0457

人事課

特秘(三)收第五一九五號ノ一

昭和九年六月一日

三重縣知事

早川三郎

昭和九年六月四日

接



内務大臣 山本蓮雄殿
外務大臣 廣田弘毅殿
警視總監 藤沼庄平殿
静岡縣知事 田中廣太郎殿

駐日トルコ大使館附武官ノ来往ニ関スル件

トルコ大使館附武官
陸軍參謀少佐

ルレユ 千二

三十八年

令大使館武官事務所勤務

米澤隆輔

四十七年

M2.5.0.3-20

右ノ客月廿三日午後七時十二分省線山田駅着列車ニテ
濱松市ヨリ未練ノ直午ニ宇治山田市古市町旅館油屋
本店ニ入り同夜一泊、翌廿四日午前八時三十分旅館ヲ出テ
宇治山田市外明野飛行學校差廻ノ自動車ニテ同校ニ
到リ見學ノ後宇治山田市ニ引返シ外宮ニ參拜シ、油屋本
店ニ於テ晝食ヲ爲シ夫レヨリ内宮ニ參拜神都紀念館ヲ
觀覽ノ上午後七時十分省線山田駅発列車ニテ東京ニ
向ケ退去セリ
右及申(通)報候也

歐亞司
第一課

外秘第三〇二七號

昭和九年十月二十日

警視總監

藤 名 庄 平

内務大臣 後 藤 文 夫 殿
外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

上耳古大使ノ言動ニ関スル件

麻布區新龍土町一ニ番地
土耳古代理大使 イスマイル、ネビル、ベー

右者本邦在任田教徒ノ紛争問題其他土耳古政府ノ田教徒政策等ニ對シ側近者ニ左記言動ヲ漏シタリ却參考迄此段及申
(通)報候

記

トルコ共和國ハ政教分離ヲ主義トシテ居ルカ之ハ近代國家ニ於ケル當然ノ理ヲ大ニ田教徒其ノモノヲ壓迫スルモノデハナイ然ルニ依然トシテ舊帝政ヲ復活セントシテ策動スル一兆カアリ之ニ微妙ナル國際干渉カ錯雜シテ居ル為メ我々ハ之ニ對シ深甚ノ注意ヲ拂ハナケドナラナイ東京ニ於テモ「クルバンダリ」一兆カ田教徒獨立ト稱シテ種々ノ画策ヲシテ居リ最近テハ「イスハマ」一兆ト諸種ノ紛争ヲ起シテ居ルカ元来「クルバンダリ」其若ク真ニ真面目ナ民族運動ヲナス様ナ人物デナイ事ハ明カテ今更ニ紛争ニ際シテ彼ノ為シタ策動ハ卑劣極マルモノデ全ク個人的人都合カラ出發シテ居ルモノデアル、彼ハ常ニ日本ノ名士ニ取入り或ハ表人ヲ利用シ更ニ官憲ニ迫リテ自巳ノ立場ヲ有利ニスルコトニ及タトシテ居ル最近ノ間ノ紛争ニ關連シテトルコ人テアル「ハサニムスターハ」ハ非常ナ迫害ヲ受ケタカ日本ノ國志ヲ犯シタ矣ニ就テハ處分ヲ受ケル事ハ當然デアルカ然シ其ノ間日本ノ官憲ハ「クルバンダリ」一兆ニ多ク關イタ様ニ思ハレル此ノ為ハ何等カノ形式テ對策ヲナスンモリテアル
尙最近大重細重通信(本年十月五日發行第三四號一三頁記載)

M2,510,3-20

M-0464

0459

ハ、イスマハミ、クン、グイ、エト、側ト、連絡、シ、之ヲ、上、耳、也、大、使、館、カ、休、ム、ス、ル、云、々
ノ、記事、ヲ、記載、シ、テ、居、ル、カ、之、等、ハ、何、レ、モ、固、教、徒、問、題、ニ、干、渉、シ、テ、何、等
カ、益、ニ、ス、ル、モ、ノ、仕、業、テ、斯、ノ、如、キ、大、使、館、ニ、對、ス、ル、誣、言、カ、公、然、ト、ス、書、
テ、發表、サ、レ、ル、様、ナ、事、ハ、日、本、官、憲、ニ、於、テ、充、分、ナ、取締、ヲ、ナ、サ、ナ、ケ、レ、ハ、ナ、ラ
ナイ、事、ト、思、フ

「クルバンダリ」一報ニハ、シカノ國士テアル、頭山翁、其、他、ノ、名、士、カ、利用
サ、レ、テ、居、ル、カ、之、等、ノ、人、々、ノ、名、譽、カ、傷、ケ、ラ、レ、ル、様、ナ、場、合、モ、アリ、得、ル、テ、ア
ラ、シ、シ、且、ツ、現、在、反、好、干、渉、ニ、在、リ、貿易、モ、漸、ク、増、進、シ、マ、シ、ト、シ、テ、居、ル
際、日、土、兩、國、間、ノ、國、際、干、渉、カ、前、記、ノ、様、ナ、問、題、ノ、為、ニ、有、害、ナ、影響
ヲ、及、ケ、ル、事、ハ、實、ニ、愚、心、ニ、堪、ヘ、ナイ、次、第、テ、アル、我、々、ハ、日、本、ノ、官、憲、カ、日
土、兩、國、ノ、將、来、ノ、友、好、干、渉、ト、云、フ、大、局、由、立、場、ニ、シ、ツ、テ、尚、モ、此、ノ、為、メ、不
利、ナ、策、動、ヲ、ナス、者、ニ、就、テ、ハ、其、ノ、私、ノ、如、何、ヲ、問、ハ、ス、嚴、重、ナ、取締、ヲ、ナス
ヲ、希、望、ス、ル

(了)

M-0464

0460

人事課
外批第 四〇五 號

昭和十年五月六日

福井縣知事

近藤 駿



昭和拾年五月拾日 接置 記

在事部各國外務官、領事官及附員事務

内務大臣後藤文夫殿
外務大臣廣田弘毅殿
警視廳北道神奈川愛知
大坂兵庫福岡長崎山口
各府縣長官殿
在 內務事務官殿

M2.5.03-20

在東京土耳其大使館附武官、渡満ニ関スル件

東京市滋谷区他々木山谷三〇六

駐日土耳其大使館附武官

陸軍参謀少佐

土耳其人 エムルレユチユ

Pinkie A. H. H. H.

右者本月六日午前九時十四分敦賀港駛着回際列車
ハテ東京ヨリ米穀全午後二時出帆、天草丸ニテ雄基至
由渡満セルガ全人ハ今回本國政府ヨリ一ヶ月、豫定ヲ以
テ新興滿洲國ノ軍事狀況其ノ他ノ視察ヲ命セラシ
タルニ、ニシテ客月二十五日付駐日中國公使館ヨリ又本月一日付
駐日滿洲國公使館ヨリ天々入國査証(外交)ヲ交得本月五日
東京ヲ出発雄基ヨリ鐵路新京ニ至リ滿洲國各地ヲ視察
其ノ途次天津北京朝鮮經由歸館ノ豫定ナル趣ニシテ
今回ノ滿洲國視察ハ、可古ガ滿洲國ヲ承認スル資料
ヲ得ルヲメナルガ如キ口吻ヲ返シ居レリ
因ニ携帶品ハ大型トランクリ一個ニシテ格別容疑ノ虞ヲ認メズ
右又申(通)報候也

M-0464

0464

分類 M2.5.0.3-20

東亞局
不普通 第五七號

昭和十年五月十八日

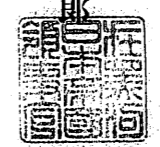
第三課
長

五月廿七日接受
別紙添付

外國人(外國武官)

在黑河

副領事 大谷 二郎



人事課長

外務大臣 廣田 弘毅

殿

吹上

昭和十年五月十八日附

在滿大使

宛往信寫送附ス

普通 第一〇四號

件名

一 駐日トルコ大使館附武官名録一冊之件



普通第一〇四號

昭和十年五月十八日

在黑河

副領事 大谷 二郎

在滿洲國

特命全權大使 南 次郎 殿

駐日土耳其大使館附武官來照ニ關スル件

五月十六日哈市ヨリ飛行機ニテ駐日土耳其大使館附武官「ルシコチ
エ」少佐來照シ當地特務機關長瀧谷大佐ノ案内ニテ國境ニ於ケル赤
衛軍ノ防衛狀況等ヲ視察シ同夜特務機關主權ノ招宴ニ臨ミ翌十七日
哈市ヘ向ヒタルカ同武官來照目的ハ單ナル當地方視察ニアリ日本軍

在齊々哈爾日本領事館黑河出張所

M-0464

0462

カ短期日ニ亂立セル匪群ヲ滅シ斯クモ速カニ滿洲ノ治安ヲ確立セル
ヲ激賞シ蘇聯ニ重大ナル關心ヲ有スル土耳其ハ日滿兩國ノ健全ナル
發展ニ伴ヒ蘇聯共產國ニ相當ナル打撃ヲ與ヘタルヲ悦ヒ居レル口吻
ヲ洩ラシ居リタル趣ナリ

右報告ス

本信寫送付先

外務大臣 在哈爾濱總領事 在齊々哈爾領事

在齊々哈爾日本領事館黑河出張所

B

M-0464

0463

人事課



特外第一三五四號

昭和十年五月三十一日

藤田

山口縣知事

山口縣知事

菊山喜加田



條約局
第二課

内務大臣後藤文夫殿

外務大臣廣田弘毅殿

指定廳府縣長官殿

歐亞局

土耳其大使館附武官來往ノ件

國竹藉、土耳其國

住所、東京市葎谷區代々木山谷町三〇六

土耳其大使館附武官

陸軍參謀少佐

エム、ルシユキエ、バー

(40)

M. Rustic Bay

分類 M 2.5.1.3-200

右者五月三十日午後七時三十分下関入港、関釜連絡船ニテ渡
来セルヲ視察スルニ滿洲國視察ノタメ五月五日敦賀港
發清津雄基ヲ經テ新京奉天其他各地ノ視察ヲ了ヘ
京城經由飯来サルモノニシテ今日午後八時三十分發列車
ニテ住所地ニ向ケ東上セルハ視察中特日共ノ実ヲ認ムス
右及申(一通) 報トヤ

M-0464

0464

在公那各國外交官、領事官及館員勤務關係

上國

昭和拾年六月拾七日接受

記

人事課
外秘第八八四號

昭和十年六月十四日

大阪府知事 安井英二

通商局

内務大臣 後藤文夫殿
外務大臣 廣田弘毅殿

警視廳 神奈川北海道兵庫
長崎京都愛知三重奈良

各廳府縣長官殿

條約局
第二課

土耳其代理大使 來往勤務一閱文件

駐日土耳其代理大使

ネビル バイ
Nevil Bay 夫妻

右大使ハ日土貿易組合及近東貿易協會(大阪商工會議

所内)ヲ忠トシテ日土貿易暫定協定成立後ニ於ケル大阪
側商人ト貿易促進懇談會目的ヲ(夫人ニ觀光)同大使
館通訳近江谷駒(警視廳編入露西亞關係要注意人)ヲ
同伴本月六日午後五時大阪駅着列車ヲ東京ヨリ大阪
ニ新大阪ホテルニ止宿シ左記勤務有之同十日午前八時ホ
五分大阪駅發列車ヲ三重(美)縣下宇治山田市ニ向ケ退
阪也

而シテ同大使ハ一九三四年十二月一日前請求償協定(バーター制)
成立後西國貿易額四百萬圓ニ達セリク之ヲ更ニ二千萬圓見
南進増進セル目的ヲ現在輸入品(綿花、阿片)ノ外更

M-0464

0465

小麦、岩塩、銅、購入ヲ懇談会其他凡テ機会ニ強調
熱望シ之ニ及レ邦商團ハ採算上全然ニ興味ヲ有セザリ
為大使ハ種焦慮ノ様アリ云々

記

六月七日午後五時大阪着列車ヲ東京ヨリ来阪新大阪ホリ

八日午前十時大使及通訳八市市大阪土庫古若譽領事

館(南區順慶町五丁目市商會)等挨拶訪問シ

正午大使夫妻及通訳ハ自動車ヲ神戸ニ赴キ料亭菊

水ニテ午餐

午後二時半頃滞阪大朝大毎挨拶訪問

午後六時半新大阪ホテル會館ニ於テ大使主催在阪

有力官民招待晚餐會ニ出席

九日午前十一時半日土貿易協會長長友平兵衛主催大使主

妻及日土貿易組合加盟商社代表招待午餐會ニ列席

又

(兵庫縣下笠屋三茶表別邸)午後五時滞宿

十日(午前中)レレ休養

午後五時末區今橋五丁目大阪俱樂部ニ於テ日土

貿易組合主催貿易懇談會ニ出席午後七時散

會更ニ附近料亭「アツキ」ニ於テレ同貿易組合主

催大使歓迎晚餐會出席

十一日午前八時千原大阪駅發列車ヲ宇治山田へ(予定)

午前十一時十七分宇治山田市着(四外宮参拝)

午前十一時五十分山田發列車ヲ鳥羽ニ赴キ御木本真

珠養殖場視察

午後六時半甲八分鳥羽發列車ヲ名取屋ニ赴キ万平ホ

テルニ夜宿シ

十三日(午前中)日本毛織若古屋支社工場視察

アゴラ産業株式會社本社訪問

午後 名古屋城見物 名古屋製陶所視察
ノ十音 午後名古屋發京都着 一都ホテル投宿觀光ノ為
約百滞洛ノ予定

右及申(通)報順也

(夏道先船場島川口宿の天橋各署)

名古屋城見物
名古屋製陶所視察
都ホテル投宿觀光
約百滞洛ノ予定

M-0464

0467

記録件名
駐米領事館外交官、領事官及館員勤務記録簿
昭和拾年七月拾壹日接受

島

人事課
特高秘笈第四九四一號
昭和十年七月八日

長野縣知事大村清一

10.7.11
事

歐亞局
第一課

條約局
第二課

内務大臣後藤文夫殿
外務大臣廣田弘毅殿
警視總監殿
指定廳府縣長官殿

外口公館員永往一件

東京駐在土耳其國代理大使
ネビルバ

M2.5.10.3-20

右者七月三日午後九時三十二分信越線下り列車

ニテ乗輕シ輕井澤別荘一三二五号ニ家族ト
共ニ滞在中ニ有之格別ノ言動無之

東京駐在米口大使館付外交官補
陸軍中尉 マンソン

F. P. Morrison

右者七月二日午後二時三十分信越線輕井澤
駒着列車ニテ乗輕シ今地別荘一五六四号ニ
滞在中ニシテ何等異状ナシ

上海駐在ポーランド口領事

テ、フレメリ

H. De Fremery

(150)

M-0464

0468

右者 七月一日 午後二時三十分 東京方面ヨリ 信
越線 軽井沼 駅着下り列車ニテ 来軽シ 軽井
沼ニ 笠小テルニ 滞在中ニシテ 目下何等
異状無之
右及申(通)報也

M-0464

0469

記録簿名 在本邦各國外交官領事官及附員勤務時間簿
昭和十年九月十八日接受

外務省 第二課長
外秘第六五八一號

昭和十年九月十六日

大政府知事 安井英二

内務大臣 後藤 文夫 殿
外務大臣 廣田 弘毅 殿
指定各廳府縣長官 殿

工國官吏來着其、他ニ関スル件

對號 (昭十年八月二十日外秘第一三九四號
九月十一日外秘第一五五二號)

要旨
一 工國官吏ダバビルウハ本月十四日駐日工國領事館勤務一
等書記官トシテ無事着任セリ
二 右翼團體ニ於テハ本名來訪ヲ「工國特使」ナリト推斷シ

本名ヲ中心トシテ策動セントスル模様ナリ

一 エチオピア國官吏 *Abba Bana* (當三十七年)ノ來訪豫定ニ
関シテハ對號ヲ以テ支々既報ノ處本月十四日神戸入港、長崎丸
ニテ全國ニ在留セシ大政毎日新聞社特別通信員庄司勇之助
ト共ニ來着直チニ阪神國道ヲ經由、午後五時ニ於テ大政市東
區高麗橋詰町三、エチオピア國領事館ニ到着、今名譽領
事湯川忠三郎ニ正式着任、挨拶ヲ述ヘタルカ小憩、後令領
事ノ案内ニテ大政毎日新聞社、知事官舎、警察部長官舎
ノ歴訪、挨拶ヲ述ベ續イテ今七時ヨリ大政朝日新聞社主催
ニ條ル本名歓迎晚餐會ニ臨ミタルカ席上「日本國民ノ工國ニ對

外秘 2,510,3-200

M-0464

0470

スル同情ヲ深謝シ今後モ不変ノ聲援ヲ送ラレ度シトト撰
撰シ宴後エ國ノ現狀ニ関シ種々座談ヲ試ミタル後全九時三十
分宿舎大政市東區今橋丁目大政ホテルニ入レリ 而シテ翌
十五日午前九時湯川領事ノ案内ニテ東久通師團長宮邸
ニ伺候末朝ノ撰撰ヲ言上シタル後全九時十分京阪電車ニ
テ伏見桃ノ御陵ニ向ヒタルカ御陵参拜後京都都ホテルニ於
ケルエテオピア救援同志會主催ノ歡迎茶話會ニ列席シタル趣
ニシテ全午後二時十分帰館セリ(京都(貴)麻へハ電話通報ス)
一本名ハ等書記官トシテ駐日エ國領事館勤務ヲ命セラレタル
趣キニシテエ國皇帝ヨリノ全任命書ヲ所持シ任期一ケ年ソノ間
前記湯川名譽領事ノ下ニアリテ執務スト稱シ居レルカ事局
板池ニ何等カノ特別使命ヲ有シ居ルニアラスヤト思料セラレ動
靜内懐中

一本名ノ來朝ニ関シ各種右翼團體ノ策動ニツキテハ當亦特高
課ト連絡ヲトリ銳意注意中ノ處エテオピア救援同志會関東
代表伊地知義一、柳町茂道、神原幸三郎、杉浦應之助名ハ本
月十三日午前九時湯川領事ヲ訪問シ左記ノ如キ歡迎文ヲ神ノ
突撰ニ於テ手交シ度シト申入レカ諒解ヲ求メタル後直ニ京
都ニ向ケ退散セリ又管下右翼團體愛國青年聯盟、福原
正直外セ名ハ當日神ノマテ出迎ヘタルカソノ他ニ格別具體的策
動ナカリキ サレドモ等右翼團體ニ在リテハ、ダバビルノ末

M-0464

0471

邦ハエ國ヨリ我カ帝國ヘ「特使」トシテ来邦シタルモノニシ
テ湯川領事ノ單ナル秘書トシテ来訪シタルモノニ非スト推
断シ本名ヲ湯川領事ヨリ引キ離シ單独ノ行動ヲトラシ
メントシ更ニ本名ヲ中心トシテ種々策動セントスル模様アルヲ関
係廳ニ於テハ此ノ点御注意相成度
因ニ本名今後ノ行動豫定ハ

九月十六日

知事、市長、在政領事團へ着任挨拶

ノ

午後七時大毎社主催「エチオピア實情」大講演會

(於中央公會堂)ニ出演挨拶

ノ

十七日正午 清交社歓迎午餐會

ノ

午後三時 綿業會館ニ於テ講演挨拶

ノ

六時半 神戸一中ニ於ケル講演會ニ出場挨拶

ノ

十八日午後十時 大阪 阪急列車ニテ東上(関係(貴)廳

3

(ハハ夫々電話通報セリ)

右及中(通)報候也

記

歡迎之辞

歐亞最古ノ光輝アル樺鏡ヲ捧持セル エチオピア國難打開ノ重
要任務ヲ負ヒテ来朝セル貴下等ニ對シ我等ハ衷心ヨリ歡迎ト
峽カトヲ惜マサルモノニシテ「三期ニ貴下等ガ良クエチオピア國民
ノ忠誠ト勇武ト我大日本國民ノ仁俠トノ結盟ヲ通シテ一日モ速カニエ
チオピアガ自人桎梏ノ鐵鎖ヨリ解放セラレシトヲ念願ス

昭和十年九月十四日

ダバビルウ
庄司勇之助殿

エチオピア救援同志會

代表東京 伊地知義一
〃 〃 〃 柳町茂道
〃 〃 〃 神保幸三郎
大政 杉浦 應
京都 維新倶楽部
神戸 福島佐太郎
林田 林 岩

M-0464

0473

人事課

外秘第三九九號

昭和十一年二月二十五日

秘書官

警視總監

小泉

雄

内務大臣 後藤 文 大 殿
外務大臣 廣田 弘 毅 殿
陸軍大臣 荒 瀬 浩 毅 殿
海軍大臣 米 田 重 光 殿
各廳府縣長官 殿

新任トルコ全權大使ノ入京ニ関スル件

麹町區山下町 帝國ホテル止宿

駐日トルコ全權大使 *H. H. G. G. G.* *Gallegos*

夫人 及 息 同 半

駐日トルコ大使ノ更迭ニ関シテハ一月二十八日付外秘第一六二號ヲ以テ既報ノ慶右新任大使ハ本月二十二日午後九時東京驛着列車ニテ家族同

伴神戸經由本國ヨリ渡来入京宿書帝國ホテルニ止宿セルカ近ク遊公區
神山町四七番地所任官舎ニ移轉ノ豫定ナリ

大使入京ニ際シテハ二等書記官「ナージアキンジ」ハ神戸迄出迎ヘ東京驛
ニハ商務参事官「レサト、ケリモル」武官「ルシユツ、エルブルヒユン」海軍
留學生「ゼキエンブル」「シエレフヒニユ」其他土耳其人「メーメッド、ライフ」
同「ハヤムスタハ」舊露國人「ガリー、ダシマン」アフガニスタン人「プラタツ

「通譯近江駒其他外務省関係者等約四十名ノ出迎ヘアリタリ
尚前任代理大使「イスマイル、ネビル」ハ本月十三日午前九時東京驛發
列車ニテ神戸經由本國ニ向ケ出發セリ

右及申(通)報候

在任邦各國外交官、領事官及館員獎勵

昭和十一年二月廿六日授受



M-0464

0474

人事課

外務第 二五四七号

昭和十七年十月二十四日

大阪府知事 安井英二

昭和十七年拾月卅日 接

入 11.10.30 事

在在 在本邦外國外務省、領事官及領事館勤務關係

内務大臣 潮 惠之輔 殿
外務大臣 有田 八郎 殿

歐亞局

警視廳 北海道、神奈川県、愛知県、京都府、奈良県、和歌山県、徳島県、山口県、香川県、高松市、長崎県、熊本県、大分県、福岡県、長崎、各廳、府、縣、市長、官、役、

土耳其大使一行ノ動靜ニ関スル件

東京駐在

土耳其大使

ヒュスレブ ケレデー

Murad Yavuz

(分類) M2.5.10.3-20

右大使ハ本年三月末任シタル振ナルカ本月十日午後五時大阪駅着列車ニテ大使被附参謀中佐ルスケエエルトレヒユン (Plishti Eradshin) 全級員通譯近江谷駒ヲ同伴、東京リ来改シ在改日土貿易協会員等ノ出迎ヘシ受ケ直チニ新大阪ホテルニ投寄シタルカ来改ノ目的ハ関西方面ノ新任挨拶シ系不豫テ建設計画中ナリト和歌山(貴)縣下控野崎ニ於ケル土耳其軍艦エルトグロ口一ル碑遺雜米担員記念碑定礎式ニ臨席ノ為メニシテ滞改中厄起ノ通り行動アリタル後全二十三日午後一時貴縣拜列車ニテ帰京シタルカ格別客疑ノ言勸

M-0464

0475

無
二

記

十月十八日
十九日

午後五時来改、新大阪ホテル投宿
正午大阪駐在土庫古右衛門領事、率兵衛主権リ
歓迎午餐會(於大阪クラブ)ニ出席、来會者ハ今ノ丹
第回師團長、大阪市長、會議所會頭、小宮等三十五名
午後三時アリ

新大阪ホテルニ於テ在改新聞記者團(主トシテ經濟
記者)ニ接見シ、田中首相の閣議を傍聴し日本ノ概観トシテ著々改良
進歩シテ計リツ、アル日土兩國ハ亞細亞ノ西端ニ位置
スルト最モ民族的ニ深ク相通ズルモノカアルニ云々ト日土
親善ヲ強調スル意味ノメッセーガ發表
午後六時アリ
料亭「つや」ニ於ケル貴族院議員前日土貿易協

2

二十日

會長本林平兵衛、個人招宴ニ出席
午前七時自勤車ニテホテル貴族院圍道至由、桃
山御陵ニ参拜、續イテ京都市内ヲ見物シ午後六
時帰ルセリ
午後七時アリ

南地大和屋ニ於ケル日土貿易協會ノ招待宴ニ臨
席

二十一日

午前中大阪城、其池市内見物
午後 大阪毎日、朝日兩新聞社訪問

二十二日

今八時四十分又俣山及牟婁凡ニテ和歌山縣下新宮ニ向フ
午前七時前記牟婁凡ニテ和歌山縣下リ帰着、新大阪
ホテルニ小憩、午後八時大坂貴族院、尚今日合船カ
大阪港アリ、安芸川口ニ入ル際大使ハ船上アリ、大使ハ船中
圍土防衛地帯、丸橋島、檜附近ニ越シ、寫真ヲ撮リ

向々居タルヤノ情報ニ接シ内容調査シタルカ
其様掛帯ノ事實アルモ紀淡海峽及前記地帯
ヲ探知シタル形跡認メ難シ

右及申(通)報云也

寫捲水上川口、又掛帯長

3

M-0464

0477

儀典課

特外 收第 八五五〇 號

昭和十二年九月一日

長野縣知事 近 藤 駿 介

昭和十二年九月八日 接受

駐本邦各國外交官、領事官及館員勸諭課

歐亞局

内務大臣 馬場 鏡 一 殿

外務大臣 廣田 弘 毅 殿

近 藤 府 縣 長 官 殿

松 本 憲 兵 分 隊 長 殿

(寫 輕 井 澤 署 長)

土耳其國大使ノ動靜ニ關スル件

管下 輕井澤別荘ニス。ニ番 滞在

在京 土耳其國大使

ヒュスレウ、ケレデ

(分類) 112.510.3-20

右者動靜ニ關シ側近者ヨリ内偵スルニ其狀況左記ノ如ク
ニシテ我國ニ對シ好意ヲ持テ居ラサル模様ニシテ着任
來未タ日淺ク列國トノ接觸尠ク僅カニ弱小國公使負ノ
出入アルニ過ヤス最近ニ於テハ蘇聯邦トノ連絡ニ前大使ノ
如ク密接ナラサル模様ニ有之
右及申(通)報候也

記

一他國公官員トノ連絡關係

ケレデ大使着任以來英米等トノ連絡ハ殆ント斷ク來輕
後附近別荘ニ避暑中ノ

米國大使 彼 參事 友 トウ マン

ナ一回招待シ晚餐ヲ為シタルノ外大國トノ來往ナキ模様

ナル元八月二十七日

M-0464

0478

佛國大使館付空軍武官

空軍中佐 マックス、フリエール

夫妻

ヲ招待來輕スル豫定ニテ午後七時二十八分着列車ニ
出迎ヒ(通譯)タルモ病氣ト稱シ來輕モ知レテ

フリエールノ娘

ヒトウ (佛國商務官秘書 ヒトウ妻)

ハ來着聲在中ナリ

ヒトウハ最近鎌倉方面ニ於テ写真ヲ撮影セルヤニテ警
察官ノ取調ヲ受ケ新聞ニ掲載セラレタル由ニシテ行動
容疑人物ナルカ如シ
其ノ他ハ

ノールエー、フィンランド、ポトランド

等ノ山國トハ密接ニ連絡シ居ル由ナリ
コルフ場ニ於テハ

別荘輕井澤一、二四一番

獨乙大使館參事官 ネーホル

東京市麹町区上二番町一

別荘輕井澤九〇〇番

ナショナル銀行支配人

米國人 ジャー、エル、カーテス

等ト時々コルフヲ為スコトアルモ別荘ハノ來往ナ
キ模様ナリ

ニ邦人トノ關係

同大使ハ日本顯領ナルカ如ク傳ヘラレ夫人ノ如キ
ハ日本着物ヲ着シ居ルコトアルモ親日的態度ヲ

偽装スルニ過知不非常ニ冷淡ナル人物ナル由
邦人ノ劣入ニ瓜分ク滞留中

東京文化学院学長

西村伊作(元特要)専

ハ夫人ト文際ニ居リ時々訪問スル由ナリ内查中

三、日常ノ動靜

日常コルフ、散策等ヲ日課トシ居リ邦米新聞記事
ノ政治及國際關係記事ハ重要視シ居リ大使館ニ
於テハ翻譯シタルモ避暑地ニ於テハ事務ハ取扱ハ
サル模様ナリ

(1)

M-0464

0480

儀典課
特外秘收第三六五九號

昭和十三年三月十七日

長野縣知事 大村清 一

昭和十三年三月廿四日

儀典
13.3.25

記録係

在駐邦各國外交官、領事官及館、勸業課

亞米利加屬

三國種

内務大臣末次信正殿
外務大臣廣田弘毅殿
近衛府縣長官殿
松本憲兵分隊長殿

外國公館員未往ニ関スル件

駐日トルコ大使館

特命全權大使

ヒュスレグ、ゲレーデ

右者妻 ラミア、ゲレーデ(四〇)同伴 本月十六日午

分類 112.510.3-20

前土時五十九分 輕井澤驛着信越線下り列車ニ
來縣令ニ夏管下 輕井澤町ニ避暑別荘借入ノ目的
ヲ以テ 同町別荘管理人 後藤工務所ニ到リ 同所
事務員 後藤 武次郎 (安内ニテ 六九三番別荘
(東京市芝区高輪益田孝所有)ノ下見分ヲナシタルガ借
入契約ハ 本名帰京後 決定スル 積種ニ有ニ 午後一時
頃 輕井澤 ホテルニテ 中食ヲトリ 附近別荘地帯ヲ散
歩シタル 後 同日午後三時四十分 輕井澤驛發歸京ニ
ルガ管下滞在申 格別 容疑言 動等 認めス
右及申(通)報候也

儀典

特外

三四号

昭和三十二年四月十九日

京都府知事

鈴木武一

昭和三十二年四月廿五日 接儀 13.4.25 典

内務大臣 末次信正殿
外務大臣 廣田弘毅殿
右广府県長官 官殿
外国公館員、下治勳等ニ関スル件

分類 25.0.3-20

一 東京市麻布區新藤土町
土井古特命全权大使 アーノルド・ヒュンツェンハルト
Dr. Hansen Carole
右ハ本月七日夫人ノ子員計伴大使館自動車ニテ右古
屋ヨリ下治都ホテルニ持帰浴内外ノ観櫻買物ヲ
為シ十日午前一時三十分余乗車ニテ東上御園
滞在中特異ノ言動ヲ認メス

二 東京市麻布區櫻坂町
米岡大使館員

デジイット
David Pyle

右ハ本園ヨリ観光ノ者ヲ乗用セリト認メラル、若
午ト共ニ本月八日午前九時神戸ヨリ下治都ホテル
ニ持帰観光ノ台十二日午前十時十五分京都駅発列
車ニラ本名ノ之証書セリ

三 神戸市海岸通海船ビル内

オスミ園楽園事務 木ノカ、コレイア

Carroll Warner

右ハ園楽ヲ利用シテ本月九日云々頃下治都ホテルニ
持帰シ

左京区東大路通康一糸ビル、娯楽文化研究会

秘書

ドリス、ドライヤー
Klaris Kinoyon

M-0464

0482

一、市内ニテ市内見物ヲ者シ翌十日午前十時キテ
ヲ出奈比叡山越ヲ者シ修習場坂中ニ出テ餘神ス

四、東京市麹町区五番町一
英國大使館参事官、セイ・ドックス
J. Dennis

在ハ本月十二日正午頃大使館専用自動車カニ号(一)号
乗者ト屋敷(系)ニテ前泊地計大改ホイルヨリ京及国道ヲ
至テ下諸都ホイルニテ右直左

在京区南禅寺若王寺
並州以安官補、ロルチャ
P. Lichen

方ヲ訪問シ打連シテ南禅寺市別邸及法西妙ト寺ノ
庭園ヲ観賞シ引鏡ス

東山区五条坂若宮(暢前ル)園地紅葉河共覽シリ
方ニ到リ、陶器製作工程ヲ見付テト合起、ロルチャ一カ

ニテ午後午後十時頃、十日、日曜、定泊方面トラジ
在日午直、併、地方京都、着、列車ニテ、宮の、面、シ、右、内、

矢多事官夫人、Maid J. B. Lendale
在東京米山人、Miss (Almaize) Bickson (No) Miss G. Bickson (39)

一、三、日、出、出、日、ヨリ、共、市、内、見、物、出、出、山、ヲ、カ、ン、名、ハ、十、七、日、日、時、
頃、設、自、動、車、ニ、テ、神、奈、ノ、日、見、物、ト、向、ケ、ト、出、シ、夫、人、並、同、伴、者、ハ、左、九、時、
三十七分、突、列、車、ニ、向、キ、東、東、セ、リ、

五、東京市並州區板坂町一、米日在使館内、R. W. Haman
右ハ夫、同、伴、ヲ、奉、日、出、日、下、右、出、時、ニ、五、分、着、列、車、ニ、テ、右、都、ホ、イ、ル、出、泊、
市、以、テ、觀、光、視、察、ノ、日、十、分、前、時、時、三、分、分、突、列、車、ニ、テ、東、東、ス

六、東京市並州區材木町、瑞典公使館
一等書信部官、Kaga、Miss (Leland) 夫妻

在ハ本月十日正午、南十時四十五分、着、列、車、ニ、テ、右、都、ホ、イ、ル、出、泊、
シ、奉、日、一、日、ヨリ、左、在、ル、シ、帶、在、中、ノ、英、口、人、Barteman (六五)

ト、共、ニ、市、内、見、物、ヲ、行、シ、十、時、前、九、時、五、分、分、突、列、車、ニ、テ、東、東、
崎、ニ、向、ケ、北、京、方、面、視、察、ノ、者、ト、出、奈、セ、リ、右、五、申、(通)報、也、
(了)

M-0464

0483

中
儀具課

特外秘收第百五十七号

昭和十三年二月十八日

長錦線知事 大村清

内務大臣 末次信正 殿
外務大臣 廣田弘毅 殿
近衛首相 長官 殿
松本憲兵 分隊長 殿

(寫字井内長)

外國公館員 未往ニ關スル件

延日 土庫 英大使館

特命全權大使 ヒュスレウ、ケレレー

右記妻子及令大快銀は未務冬事友妻キヤミレ、ケリモル
同件申由西口至方之的率九ノ控井保保者川亦ミテ未控
寫下控井保以計五 万半ホケルニ控箱令夏亦月ヲノ控
滞生、夕メ借入契約ヲ權シタル一四ニ一ノ外、新築工
事ノ見分シタル所附近ノ敷地、クニ同十五日、五時ニ時四十分
控井保保教師セルカ、滞在中、指前、客館、是ヲ思メ

右友申(通)報 殿

長錦線知事 大村清
三月廿一日
儀具課
30
興

M-0464

0484

儀典課

特外秘收第七一五四號

昭和十三年六月一日

長野縣知事 大村清一

内務大臣 末次信正 致
外務大臣 宇垣一成 致
近衛村長 長官 致
松本憲兵分隊長 致

(管轄井澤署長)

外國公館員ノ言動ニ関スル件

駐日土耳其大使館

二等書記官

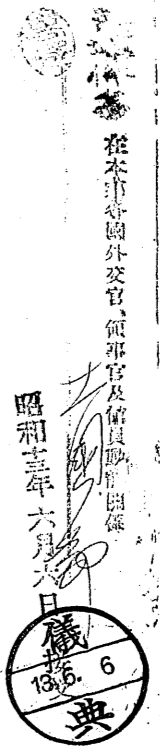
Dr. Neustadter Nazi. Amurice

分類 (M25m.3-20)

右者病氣ノ多ク五月二十二日ヨリ管下軽井澤町所在
市ナトリウム病院ニ入院療養中ノ件ニ関シテハ対第
(一三五、二六) 特外秘收第七一五四號) 既報ノ趣同二十七日午
前十一時五十六分 軽井澤發列車ヲ東京ニ向ケ退去
セルガ同病院ヨリ 軽井澤驛ニ至ル途中同策自動車
運転者 軽井澤町居住坂田武一ニ對シテ左記ノ如ク断
片的言辭ヲ洩シタルガ 滞軽中 格別苦境ノ莫クニ
右及中 (通) 報候也

託

私ハ最近飯岡 スルガ 風邪ノ後少シ氣合カ悪イタ
静養ヲ兼テ 軽井澤ニ参リマシ
父ハ 軽井澤ニ來リマセテ 然レ今ノカレニテ 大便ガ 天ニテ



M-0464

0485

又スレバ 船カ 大使 ニテ 輕井澤 へ 來ルコトカ 未マ スカラ
果シミ 知ス
土耳其 ト云フ 國ニ 黃ハ 小國 ニアリマシタカ 戰爭ニテ 勝利
カ 得テ カフ 大國 ニテ リマシタ
日本ノ 國ニ 今ハ 小國 知スガ 今度 支那ト 戰爭ニテ 勝利
ヲ 得トハ 大國 ニテ リマスノ 外 他ニ ヲレイノ 知ス
以 上

(7)

M-0464

0485

儀典課
鑑察課

外務

昭和十三年六月二十日

警視總監 安倍 源 基

内務大臣 末次 信 正 殿
外務大臣 宇垣 一成 殿
各縣府縣長官 殿

北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、鹿儿岛県、沖縄県

駐日土耳其大使館一等書記官 阪國ニ関スル件

次谷區代々木山谷 二八三番地
駐日土耳其大使館 一等書記官

ドクトル、ヌレディン、ナジ、マクランジュ (四。年)

(分類) M 2.5.0.3-20

右者本月十七日午後六時横浜汽船 逸汽船 シヤルンホール
スト號ニテ取國セルが 本人ハ昭和十年八月十九日二等書

記官トシテ渡来シ翌年二月十三日六侯ネビルベ一取國ノ爲メ
六侯事務ヲ執リタルコトアリ本年五月六日一等書記官ニ
昇進シタルモノニシテ現六侯ビユスレブ、ゲレーデト意思ノ疎
通ヲ欠キ六侯ハ昇進後モ依然トシテ同人ヲ待遇セシメテ
軌轍ヲ深メ両者ハ夫々本國ニ打電シテ自己ノ立場ヲ叙
明シ居タル評アリ式ハ斯ル關係ヨリ今回取國ヲ命セラレ
、ニ至リタルモノト認メラル

右及申(通報)候

録件
昭和十三年六月廿日
13. 6. 21

M-0464

0487

特外歐第一五五四號
昭和十三年七月七日

警視總監 安倍源基

内務大臣 末次信正 殿

岩手道官城大阪
神奈川山口福岡 各廳府縣長官 殿

土耳其商務館閉鎖其ノ他外國公館員ノ動靜ニ關スル件

一、 渋谷區原宿ニ、一九六、土耳其大使館商務參事官

レシヤット、ケルモル (四七年)

右者昭和十年九月十一日本國ヨリ入京肩書地ヲ事務所兼住居トシ通商ノ係事務ニ從事中ノ處本邦ノ為督管理法施行後貿易ノ係殆ト中絶シ商務官ノ存在無意義トナリ本國ニ請訓中ノ處本月三日閉鎖ノ命令ニ接シタルヲ以テ本月末限り之ヲ閉鎖スルト共ニ本人ハ妻カミレ、ケリモル(三八年)ヲ伴ヒ歸國ノ予定ナリ。

二、 渋谷區青葉町七、 駐日アフガニスタン公使

ハピヅラス、タルチ、カン (四一年)

右者夫人及一等書記官「アブダルヲウフ」ヲ伴ヒ本月一日午後七時上野驛發列車ニテ觀光ノ為ト稱シ札幌ニ赴キ六日午後十時上野驛着歸京ノ予定ナルカ其ノ旅行目的ニ付側近者ハ「過般伊蘭代理公使「セーバリ」夫人カ強度ノ「ヒステリー」發作シ宮城縣下松島及歸途上野驛ニ於テ本邦婦人ニ暴行シタルヲ聞キ外交官夫人ニアルマシキ行為ナリトテ憤慨スルト共ニ同公使夫妻ガ「アフガニスタン」國籍ヲ詐稱セルヤノ風評モアルヲ以テ之カ調査ヲ兼ネタルモノナリト稱シ居レリ。

三、 麴町區平河町二ノ一。 波蘭大使館附陸海軍武官步兵少佐

アタム、プレビルスキ (四一年)

右者昭和十年二月五日肩書武官ヲ命セラレ赴任在勤中ノ處歸國命ニ接シ由ニ後任「ジロ」
ジロニールハトウ陸軍參謀佐事務ヲ引継ガ為ニ六月二十九日横濱出帆米國汽船「ラシテ」ヲ乘リ歸國セリ
右及申(通報)候



(分類) 9.5. 03-20

M-0464

0488

分類 4250.3-20

羅 府	来 港
東京駐日土古大使館	注 所
新 任	目 的
駐日土古國全權大使	職 業
土 耳 古	國 籍
Mr Ferid Tek (61) フェリド テク 妻(43) 娘(24) 同伴	氏 名 年 令 及 同 伴 者
從者 Mr Jamet Babac (17) 同伴	
本大使ハ駐波蘭公使トシテ ヒケ年在在印ノ處今日本邦 駐劄ヲ命ゼラレ赴任ノ爲メ 末着セルモノニシテ駐日全 國代理大使セイフラエツセ ン氏外武官其他ノ出迎ヘヨ 受ケ午前十時上陸自動車ヲ 大使館向ケ上京セリ	備 考

外交官来着ニ関スル件
 左記ノ者昭和十四年十二月五日午前六時三十分横
 浜港入港ノブレシデントクリーブランド號ニテ来
 着セルニ付便宜供與致置候條
 此段及申通報候也

内務大臣 小原 道 殿
 外務大臣 野村吉三郎 殿
警視庁 北海道 大阪 兵庫 福岡 長崎 台北 愛知 各廳府縣長官 殿

信長課長
 外秘第二
 昭和十四年十二月八日
 神奈川縣知事 飯沼 一 省

儀
14.12.15
興

在野村外務大臣官邸
 事務官 飯沼 一 省

M-0464

0489

①

秘

東亞局
第一課

M 2.5.0.3-20

儀典課長

秘第二八一號

昭和十七年六月十七日

在山海關
領事 小坂部



昭和拾七年六月廿九日接受

17.6.30

外務大臣 東 郷 茂 德 殿

駐日土耳其大使館員ノ通牒ニ關スル件

去ル五月三十一日駐日土耳其大使館員ノ當地通過狀況左記ノ通ニ付
此段報告申進ス

記

國籍 土耳其

駐日土耳其大使館一等書記官

ネザタテ エレネル

當四十五年

在山海關日本帝國領事館

右ハ去ル五月三十一日當地通過京津經由上海ニ赴キタルカ通關當時
關係機關ト協力動靜查察ニ任シタルモ別段特異ノ點ヲ認メサリシカ
取締中左ノ言動ヲ洩セリ

私ノ今回ノ旅行ハ上海ニ在ル領事館閉鎖ノ爲テス約三週間ノ豫定
ヲ以テ閉鎖事務ヲ完了シ歸日ハ海路長崎經由ニ計畫シテ居リマス
今回將ニ北支經由ヲ執リマシタノハ私カ天津ノ代理領事ヲ兼任シ
テ居ル關係テ天津ニハ約三日間滯留シ在留民ノ近狀調査ヲ行フ豫
定テス

以上

在山海關日本帝國領事館

M-0464

0490

秘

電信寫

m 2,5,0,3-20

總 番 號 二 五 三 七 二	符 號 略	昭 和 十 七 年 七 月 廿 三 日 後 八 時	分 主 三
--------------------------------------	-------------	---	-------------

在上海 堀内總領事

東郷外務大臣

在京土耳其大使館書記官ノ上海ヨリノ歸京ニ便宜供與ノ件

第一〇四〇號

在京土耳其大使館ヨリ目下貴地「パレス、ホテル」滞在中ノ同大使館一等書記官「エルネル」歸京シタキモ乗船切符入手シ得サル趣ヲ以テ右切符入手方ニ付依頼越シタルニ付然ル可ク斡旋セラレ乗船確定次第其ノ日取電報アリ度最近閉鎖セル在支土耳其公使館家具及自動車二臺東京ヘノ運送ニ付テモ後便ニテ出來得ル限り運送方配慮アリタカ

大臣

次官

電信課長

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 弘報 調査 南洋 儀典 文書 會計 秘書官

寫送先

m 2,5,0,3-20

昭和17 五六二二九 略 上海 七月二十七日午前發 亞
本省 二十七日前着

東郷外務大臣

堀内總領事

第一五七八號

(在京土國大使館書記官「エルネル」ニ便宜供與方件)

貴電第一〇四〇號ニ關シ

「エルネル」ハ二十六日當地發歸任ノ途ニ就ケリ (了)

外務省

M-0464

0491

件名	在東京大使館 總理三ツ中大使館付 一等書記官代任三浦三郎
文書課收受係	

No. 56/134

le 1 Avril, 1943

信
典
課
長

Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur de porter à la connaissance de Votre Excellence qu'ayant obtenu un congé de quatre mois, je quitterai Tokio le premier Avril prochain.

Monsieur Haydar Gürk, premier Secrétaire de cette Ambassade, prendra jusqu'à mon retour, la direction de l'Ambassade en qualité de Chargé d'Affaires ad interim.

Veillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma très haute considération.

Terzioğlu

Son Excellence
Monsieur Masayuki Tani
Ministre des Affaires Etrangères
T o k i o.

昭和拾八年四月五日

M-0464

0492

公 信 案	ヲ表シ候 敬具	右御通報ニ對シ表謝旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意	此後ハ於テ	旨此道報切不ウノ取次致候	心段大使トシテ在本邦同國大使館筋ヲ在辦ニキ	シ某不在中トシテ大使館一書書此字ハハル、キハクガ臨時	シ某不在中トシテ大使館一書書此字ハハル、キハクガ臨時
-------------	---------	----------------------------	-------	--------------	-----------------------	----------------------------	----------------------------

(日本標準規格 B5)

發信用執務用		要翻譯 懸案 (中)		文添	
主信		先付送寫	名 件	名 人 信 受	儀 式
附甲			(本邦駐劄土耳其國大使一時離任ノ件)	在本邦	普通密 第 四
乙			以書翰啓上致候陳者 四月一日附第 58/13 號貴翰ヲ以テ	土耳其國代理大使	號 昭和 年 四月 一日附 附屬
丙			貴大使閣下ニ四月一日東京ヲ發		任主 野
丁					淨書 (中)
備考	M2.5.0.3-20	名件錄記	9	名 人 信 發	正校(原稿) (淨書)
			25	外務大臣	昭和十一年四月七日起草

(日本標準規格 B5)

M-0464

0493

電信寫

M 2.5.0.3-20

秘

在滿大使
在哈爾濱總領事
土耳其大使旅程ニ關スル件
合第二六一號
木内參事官へ久保田ヨリ
左記ノ旨北京ヨリ回電アリタリ
早速土耳其大使ニ傳ヘタル處同大使ヨリ「御傳言通り十八日「チタ」
發列車乗車ノ爲十六日滿洲里發ニ間ニ合フ様同地へ出發スヘシ」
ト回答アリタリ

谷外務大臣

號 番 總

五五
一一
八八
三二

號 符
略

昭和八年四月八日午後六時十分

管 主
政 三

Le 1^{er} avril 1943.

No. 4/pr.

儀
典
譯

Monsieur l'Ambassadeur,

J'ai l'honneur d'accuser réception à Votre Excellence de sa lettre No.56/13, en date du 1^{er} avril, par laquelle Elle a bien voulu me faire savoir qu'ayant obtenu un congé de quatre mois, Elle quittera Tokyo le même jour et que, jusqu'à son retour, Monsieur Haydar Görk, Premier Secrétaire de l'Ambassade de Turquie, prendra la direction de l'Ambassade en qualité de Chargé d'Affaires ad interim.

Je saisis cette occasion de Vous renouveler, Monsieur l'Ambassadeur, les assurances de ma très haute considération.

Signature du Ministre.

M-0464

0494

No. 96/28

NOTE VERBALE

Le Chargé d'Affaires a.i. de Turquie, M. Haydar Görk, devant se rendre à Changhai en congé l'Ambassade de Turquie serait très reconnaissante au Ministère Impérial des Affaires Etrangères de vouloir bien intervenir auprès de qui de droit afin qu'une place dans l'avion lui soit réservée à cet effet le plutôt possible.

En outre cette Ambassade saurait grés à l'honorable Ministère s'il voulez bien accorder à M. Görk le laissez-passer d'usage et Lui présente ses remerciements anticipés.

Tokio, le 6 juillet, 1943.



Au Ministère Impérial des Affaires Etrangères
T O K I O.

電信寫

録電報

在北京
ワゴンリーホテル
土耳其國大使宛

吉岡儀典課長

BON EXC. M. AMBASSADEUR ET MADAME TEK

HOTEL WAGON-LIT. PEKING.

SOIS PROFONDEMENT TOUCHÉ DE TELEGRAMME STOP

RENOUVELLE SOUHAITS BON VOYAGE. YOSHIOKA

總番號	五一六三
符號	平
日期	昭和十八年四月八日
時間	後四時
分	
主管	儀

M-0464

0495

發信用執務用	
主信	
附	甲
	乙
屬	丙
	丁
備考	M 2,5.0.3-20

文書課長	文書課發送 日昭和十八年七月拾九日發透濟	淨書	正校(原稿) 〇〇〇 (淨書)
主任	儀典課長	昭和十八年七月拾九日 日附 附屬	昭和十八年七月三十一日起草
受信人	儀典課長	昭和不和十八年七月拾九日 日附 附屬	
在	在本邦		
土耳其國	大使館		
先付送寫		名件録記	名人信發
名件	第三〇號	(「レンッセー・パッセ」案)	外務省
臨時代	在本邦土耳其國本使館理大使	ハイタル・キヨルグ	
十九年	號外交旅券所持		發給

(日本標準規格 B 5)

右	頭書シ 資格 取テ	七月三十一日	東京發	福岡	經由
有	兩氏	ハ	外來文書 携帶		
上海	ニ	赴キ	少時滞在ノ	上再入國	相成ヘキニ付テハ
同	氏	ニ	對シ	諸般ノ	便宜ヲ供與相成様
同	氏	ニ	通過ノ	地方ニ	於
ケル	帝國	諸官憲	ニ	依頼ス	
昭和十八年	七月	三十一日			
外務省					

(日本標準規格 B 5)

M-0464

0497

AMBASSADE DE TURQUIE

No. 123/30

Tokio, le 21 août, 1943

儀典課長

Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur de porter à la connaissance de Votre Excellence qu'étant rentré à Tokio, j'ai repris la direction de l'Ambassade de Turquie en qualité de Chargé d'Affaires a.i.

Veillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma plus haute considération.

A. Hasdun Gait

課書文
78.8.23
受取

Son Excellence
Monsieur Mamoru Shigemitsu
Ministre des Affaires Etrangères
T O K I O.

發信用執務用	
主信	
甲	
附	
乙	
丙	
丁	
備考	M.2.5.0.3-20

至急

公 信 案	今般別紙寫ノ通「レシー・パッセ」發給通知ノ件 (本件レセ、パッセ寫取リ添付ノコト)	名 件 「レシー・パッセ」發給通知ノ件	先付送寫	名人信受	儀 典 課 長	主 管	文 書 課 發 送 日	文 書 課 長
			名件録記	名人信發	警 保 局 長	儀 典 課 長	昭和拾八年七月拾九日發達濟	
外 務 省					木 内 儀 典 課 長	任 主	淨 書	
							正 校 (原 稿) チ カ (淨 書)	
							昭和拾八年七月()日起草	

(日本標準規格B5)

19.26

別紙

M-0464

0498

發信用執務用 分類 M2, S. O. 3-20 郵務局第四課

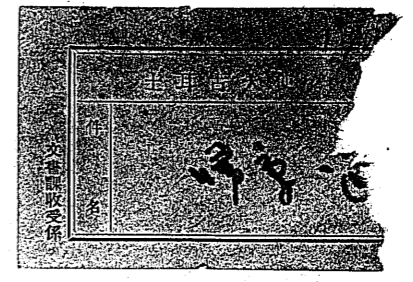
主信			
附甲			
附乙			
附丙			
附丁			
備考			

要翻譯 懸案 譯文添附

秘書官

文書課發送日 昭和拾八年八月廿七日 慶送濟	文書課長
主儀典課長	主任
普通第 〇	號 昭和昭和拾八年八月廿六日附附屬
受信人 在本邦 土耳其國代理大使	發信人 外務大臣
送寫先付名 件在在本邦土耳其國代理大使	記録件名
以書翰啓上致候陳者 八月二日附第 123/30 號貴翰ヲ以テ	公信案
紫印現右使考下、今般東京、歸任、在本邦	外務省

日本標準規格 B 5



M-0464

0499

no. 10/pr

Le 26 août 1943.

他
の
事
了

Monsieur le Chargé d'Affaires,
J'ai l'honneur de vous accuser réception de votre
lettre No.123/30, en date du 21 courant, par laquelle
vous avez bien voulu me faire savoir qu'étant rentré à Tokyo,
vous avez repris la direction de l'Ambassade de Turquie,
en qualité de Chargé d'Affaires a. i.

Je saisis cette occasion de vous renouveler, Monsieur
le Chargé d'Affaires, l'assurance de ma considération
très distinguée.

Signature du Ministre.

殊
に
録

公
信
案
—
ナ
表
シ
候
敬
具

外
務
省

此
後
公
に
於
て
右
御
通
報
に
對
し
表
謝
勞
本
大
臣
ハ
茲
ニ
重
ネ
テ
關
下
ニ
向
テ
敬
意

土
耳
其
國
臨
時
代
理
大
使
ト
シ
テ
領
事
ヲ
處
辦
ス
ル
旨
御
通
報
相
承
取
致
候

(日本標準規格 B5)

M-0464

0500

	發信用	執務用
主信		
附屬	甲	
	乙	
	丙	
	丁	
備考		

公 信 案	外 務 省	今般別紙寫ノ通「レーセー・パッセ」發給セラレタルニ付茲ニ送付ス (本件レーセ、パッセ寫取リ添付ノコト)	名 件 「レーセー・パッセ」發給通知ノ件	先付送寫	名 人 信 受 内務省 警 保 局 長	儀 普通 第二二五號 昭和昭和八年十月六日附 附屬	管 主 儀典課長	文書課發送日 昭和八年十月六日	文書課長
							任 主	淨書	正校(原稿)
				名 件 録 記	名 人 信 發 吉田 本内儀典課長		昭和 年 月 日 起草		

(日本標準規格 B5)

6 24

M-0464

0502